

Sun Java™ System Portal Server リリース ノート

バージョン 6 2005Q1

Part No. 819-1494

このリリースノートには、Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 リリース時点における重要な情報が記載されています。新しい機能や拡張機能、既知の問題と制限、およびその他の問題点が記載されています。Portal Server 6 2005Q1 を使用する前に、このマニュアルをお読みください。

このリリースノートの最新情報は、次の Sun Java System マニュアル Web サイトで参照できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q1?l=ja#hic> ソフトウェアをインストールおよびセットアップする前に、Web サイトで最新のリリースノートや製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートは、次の項目で構成されています。

- [リリースノートの改訂履歴](#)
- [Portal Server 6 2005Q1 について](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題と制限](#)
- [問題の報告方法とご意見について](#)
- [追加情報](#)

このガイドで参照されるサードパーティの URL で、詳細な関連情報を得ることができます。

注 Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティ Web サイトの利用について責任を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆるコンテンツ、広告、製品、およびその他素材を保証するものではなく、責任または義務を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆるコンテンツ、製品、またはサービスによって生じる、または生じたと主張される、または使用に関連して生じる、または信頼することによって生じる、いかなる損害または損失についても責任または義務を負いません。

リリースノートの改訂履歴

表 1 改訂履歴

日付	更新内容
2004年11月1日	Sun Java™ System Portal Server 6 2005Q1 リリースノートのベータリリース
2005年3月3日	Sun Java™ System Portal Server 6 2005Q1 リリースノートの RR リリース

Portal Server 6 2005Q1 について

Sun Java System Portal Server 6 は、エンドユーザーがリソースとアプリケーションにアクセスするためのポータルデスクトップです。また、Portal Server ソフトウェアは、ポータルデスクトップからイントラネットコンテンツの整理とアクセスを可能にする検索エンジンインフラストラクチャも提供します。さらに今回のリリースでは、通信チャンネルが Portal Server ソフトウェアとともにインストールされます。通信チャンネルは、メールチャンネル、カレンダーチャンネル、アドレス帳チャンネル、Instant Messaging チャンネルで構成されます。

また Portal Server は、リモートユーザーがインターネットを経由して組織のネットワークとそのサービスに安全にアクセスできるようにする、Secure Remote Access もサポートします。また、このリリースは、組織に対して、従業員、ビジネスパートナー、一般の人々など、あらゆる対象読者向けにコンテンツ、アプリケーション、データへのアクセスを提供するセキュアなインターネットポータルを提供します。

ここで説明する内容は次のとおりです。

- [このリリースの新機能](#)
- [Portal Server のパッチ情報](#)
- [Solaris のハードウェアおよびソフトウェア要件](#)
- [Linux のハードウェアおよびソフトウェア要件](#)
- [インストール後の設定](#)

このリリースの新機能

次に示す機能は Secure Remote Access の新機能であり、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』には記載されていません。

- Proxylet で HTTPS をサポートします。この実装により、次のような変更があります。
 - 復号化はクライアントサーバーで実行されます。
 - SSL モードで稼働する宛先サーバーにアクセスできます。
 - クライアント証明書を宛先サーバーに直接示すことができます。
 - 基本認証シングルサインオンは、ゲートウェイで使用できなくなります (ゲートウェイは SSO 情報を http ヘッダに挿入できない)。
 - URL ベースのアクセス制御はサポートされず、ホストベースのアクセス制御だけがサポートされます。
 - GW 手前の外部アクセラレータと外部リバースプロキシは現在サポートされていません。
 - このサポートは、HTTPS で動作する Portal Server による Proxylet に対するものではありません。
- Proxylet Java アプレットには、PAC ファイルのコンテンツを決定するルールが追加されました。すべての HTTP 要求は Proxylet に送られます。管理者は Proxylet のルールにより、プロトコル、ホスト、またはドメインへのポートに基づいてマッピングを指定できます。

たとえば、すべての FTP トラフィックが Netlet を経由したり、すべての HTTP トラフィックが Proxylet を経由するように経路ルールを作成することが可能です。
- Access Manager 管理コンソールを使用することにより、Portal Server 管理者は、Netlet を Java Web Start によって起動するのか、または Netlet アプレットによって起動するのかを選択できます。管理者が Java Web Start を選択した場合は、ユーザーがデスクトップの Netlet アイコンをクリックすると、ブラウザが起動して Netlet が実行されます。Java Web Start を使用する場合は、一度配備すれば、Netlet を再びダウンロードする必要がなくなります。

Portal Server のパッチ情報

Portal Server 6 2005Q1 製品に必要なパッチがリリースされています。このパッチには、アップグレード関連の修正プログラムとその他の修正プログラムが含まれています。この統合版のパッチ ID は次のとおりです。

- 118950-01 Solaris Sparc プラットフォーム用
- 118951-01 Solaris x86 プラットフォーム用
- 118952-01 Linux プラットフォーム用

パッチの Readme ファイルには、パッチによって修正されるバグの一覧とインストール方法が記載されています。パッチをダウンロードしてパッチの Readme を表示するには、<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patches/patch-access> にアクセスし、「パッチ検索」フィールドにパッチ ID を入力します。

パッチの適用順序は、インストールされた Portal Server が新規インストールかアップグレード版かによって異なります。

Portal Server の新規インストールにパッチをインストールする

Portal Server の新規インストールに Portal Server のパッチをインストールするには、JES インストーラを実行して Portal Server 製品を最初にインストールする必要があります。

Portal Server のアップグレード版にパッチをインストールする

Portal Server 6 2004Q2 から Portal Server 6 2005Q1 へのアップグレードを行う場合は、アップグレードプロセスの前に Portal Server 2005Q1 の必須パッチをインストールする必要があります。次の順序でアップグレードを実施してください。

1. Portal Server 2005Q1 のアップグレードパッチをインストールします。
2. Portal Server 2005Q1 の必須パッチをインストールします。
3. Portal Server 2005Q1 のアップグレードスクリプトを実行します。

必須パッチでのバグ修正プログラム

次の表に、Portal Server 6 2005Q1 必須パッチによって修正されるバグの一覧を示します。

表 2 Portal Server 6 2005Q1 必須パッチによって修正されるバグ

バグ ID	概要
6207552	アップグレードすると、Proxylet の管理ウィンドウのコンテンツが変化します。サービスコンソールに Proxylet のルールを呼び出すリンクが存在せず、Proxylet のルールを使用できなくなります。

表 2 Portal Server 6 2005Q1 必須パッチによって修正されるバグ (続き)

バグ ID	概要
6192579	Java Enterprise Server 2 から Java Enterprise Server 3 にアップグレードすると、ゲートウェイが起動しなくなります (バグ 6192570 の修正の一部としてなされた修正)。
6184747	コンテキストキャッシュからコンテキストを削除する仕組みがありません。
6209932	psupgrade スクリプトにより wconfig の実行を求めるプロンプトが表示されます。
6211208	Portal Server の製品名がポータルホームページで 2004Q2 として表示されました。
6213441	perftune スクリプトが amtune スクリプトの起動に失敗します。パスワードが perftune 内部から amtune に渡されません。
6218887	ポリシー評価がデスクトップで無効化されます。
6209931	Portal Server 6 2004Q2 から Portal Server 6 2005Q1 にアップグレードすると、ゲートウェイが起動しなくなります。
5101574	perftune スクリプトが Sun Java System Application Server 8.1 での最新版ではありません。
6212866	scrubds オプションを指定して psconfig スクリプトを実行すると、ポータルサービスが設定時にロードされなくなります。
6212868	unconfigurewithoutscrubds オプションまたは unconfigurewi オプションを指定して psconfig スクリプトを実行すると、ポータルの再設定に失敗します。
6216521	upgradePS スクリプトでポータルの配備に失敗します。
6215043	portalserver SRA 設定の対話型モードで配備に失敗します。
6208239	毎夜、PS を使用して、認証なしのモバイルデスクトップにアクセスする IllegalStateException。
6214602	NLP が、JES2 から JES3 へのアップグレード後に動作しなくなります (Solaris と Linux の両方)。
6208279	Proxylet モードで、Telnet などの複数ターゲットを持つ Netlet が動作しません。
6218094	ゲートウェイが、デバッグオプションを指定する場合にのみ chroot モードで起動します。
6214157	Netlet が Java webstart でロードしません。
6214609	WSRP 機能の移行が Application Server 7.0 で破壊されます。
6201701	Proxylet をダウンロードした後、デスクトップページがダウンロードされません。
6189951	Application Server 8.1 または IBM WebSphere で動作する Portal Server の場合、管理コンソールに入力したマルチバイト文字が正しく表示されません。
6209451	Portal Server アップグレードが配備コマンドで失敗します。

Solaris のハードウェアおよびソフトウェア要件

次に、Portal Server のこのリリースに適するハードウェアおよびソフトウェアの要件を示します。

表 3 Solaris™ のハードウェアおよびソフトウェア要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
サポートされるプラットフォーム	Sun Ultra™ 60 または Sun Blade と同等、またはそれ以上のワークステーション
オペレーティングシステム	Solaris™ 8 または Solaris™ 9 U6
RAM	評価用インストールには 512M バイト必要 通常配備には 1.2G バイト必要
ディスクの空き容量	Portal Server と関連アプリケーション用に 1G バイト必要

Linux のハードウェアおよびソフトウェア要件

表 4 Linux のハードウェアおよびソフトウェア要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
オペレーティングシステム	Linux: RedHat EL AS 2.1 u2
RAM	評価用インストールには 512M バイト必要 通常配備には 1.2G バイト必要
ディスクの空き容量	Portal Server と関連アプリケーション用に 1G バイト必要

ソフトウェアの要件については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0815?l=ja> にある『Sun Java Enterprise System リリースノート』を参照してください。

デフォルトパスとファイル名

このリリースノートで使用するデフォルトパスとファイル名の一覧を次の表に示します。

表 5 デフォルトパスとファイル名

項目	説明
<i>PortalServer-base</i>	<p>Portal Server のベースインストールディレクトリを表します。Portal Server 2005Q1 のデフォルトベースインストールおよび製品ディレクトリは、使用するプラットフォームによって異なります。</p> <p>Solaris™ システム : /opt</p> <p>Linux システム : /opt/sun</p> <p>たとえばインストールルートが /opt (デフォルト) であれば、Portal Server は、Linux プラットフォームの場合には /opt/sun/portal に、Solaris プラットフォームの場合には /opt/SUNWps にインストールされます。</p>
<i>AccessManager-base</i>	<p>Access Manager のベースインストールディレクトリを表します。Access Manager 2005Q2 のデフォルトベースインストールおよび製品ディレクトリは、使用するプラットフォームによって異なります。</p> <p>Solaris™ システム : /opt/SUNWam</p> <p>Linux システム : /opt/sun/identity</p>
<i>DirectoryServer-base</i>	<p>Sun Java System Directory Server のベースインストールディレクトリを表します。具体的なパス名については、製品マニュアルを参照してください。</p>
<i>ApplicationServer-base</i>	<p>Sun Java System Application Server のベースインストールディレクトリを表します。具体的なパス名については、製品マニュアルを参照してください。</p>
<i>WebServer-base</i>	<p>Sun Java System Web Server、BEA Weblogic 8.1 SP2、または IBM WebSphere のベースインストールディレクトリを表します。具体的なパス名については、製品マニュアルを参照してください。</p>

インストール後の設定

この節は次の項目で構成されています。

- [psconfig スクリプト](#)
- [Portal Server と Secure Remote Access の設定用チェックリスト](#)
- [ゲートウェイの設定用チェックリスト](#)
- [Netlet プロキシの設定用チェックリスト](#)
- [Rewriter プロキシの設定用チェックリスト](#)
- [対話型モードでの Portal Server の設定](#)
- [サイレントモードでの Portal Server の設定](#)
- [Portal Server のインストール後のタスク](#)

psconfig スクリプト

「あとで設定」オプションを指定し、Sun Java Enterprise System インストーラによって Portal Server をインストールした場合は、psconfig スクリプトを使用して Portal Server コンポーネント製品を設定します。この次に示すチェックリストに、Portal Server コンポーネント製品の設定で使用するパラメータを示します。

psconfig を実行するには、次の手順に従います。

1. 端末ウィンドウのルートとして、psconfig スクリプトが格納されたディレクトリに移動します。

```
cd PortalServer-base/lib
```

2. 設定は、対話型モードで実行するか、サイレントファイルを使用して実行できます。
 - 対話型モードで設定するには、「./psconfig」と入力して psconfig スクリプトを実行し、その後、設定に関する質問に対して適切な答えを入力し設定作業を進めます。

[「対話型モードでの Portal Server の設定」](#)を参照してください。

- サンプルのサイレントファイルを使用して設定するには、次のように入力して psconfig スクリプトを実行します。

```
./psconfig -s pssamplesilentfile
```

[「サイレントモードでの Portal Server の設定」](#)を参照してください。

注 サンプルの pssamplesilent ファイルは、PortalServer-base /SUNWps/lib にあります。使用する前に、セットアップ状態に合わせてこのファイルに変更を加えてください。

最小インストールを実行した場合は、`psconfig` スクリプトを使用して、インストールした Portal Server を設定する必要があります。次のチェックリストに、インストール後の設定で必要になる値を示します。使用する値は、実行するインストール方法に応じて異なります。

チェックリストは次のように構成されています。

- コンポーネント
- ベースディレクトリ
- 設定モード
- 配備情報
- Web コンテナ情報
 - Sun Java Webserver
 - Sun Java Application Server 8.1
 - Sun Java Application Server 7.0
 - BEA WebLogic Server
 - IBM WebSphere
- Portal Server 情報
- Identity Server 情報
- Secure Remote Access 情報
 - ゲートウェイ
 - Netlet プロキシ
 - Rewriter プロキシ

Portal Server と Secure Remote Access の設定用チェックリスト

表 6 では、インストール後の設定作業で必要になる値すべての一覧を 3 列にまとめています。使用する値は、実行するインストール方法に応じて異なります。

注	<p>Portal Server 2005Q1 のデフォルトベースインストールおよび製品ディレクトリは、使用するプラットフォームによって異なります。</p> <p>Solaris™ システム : /opt</p> <p>Linux システム : /opt/sun</p> <p>たとえばインストールルートが /opt (デフォルト) であれば、Portal Server は、Linux プラットフォームの場合には /opt/sun/portal に、Solaris プラットフォームの場合には /opt/SUNWps にインストールされます。</p>
----------	--

注 パラメータがコンテナに適用されない場合は、この表には記載されていません。

表 6 Portal Server の設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
COMPONENTS		
設定する Sun Java System Portal Server のコンポーネント	1,2,3,4,5	<p>PortalServer を設定する場合は「1」に設定します。</p> <p>Secure Remote Access Core を設定する場合は「2」に設定します。</p> <p>ゲートウェイを設定する場合は「3」に設定します。</p> <p>NetletProxy を設定する場合は「4」に設定します。</p> <p>RewriterProxy を設定する場合は「5」に設定します。</p> <p>複数のコンポーネントを設定するには、各エントリの間をカンマ (,) で区切ってください。</p>
BASEDIR		
BASEDIR		Java Enterprise System インストーラを使用して Portal Server ソフトウェアがインストールされるベースディレクトリです。
Sun Java System Portal Server コンフィギュレータのコンポーネントがインストールされているディレクトリ		<p>ベースディレクトリは使用するプラットフォームによって異なります。</p> <p>たとえば、インストールルートが /opt (デフォルト) の場合は、次の場所に Portal Server がインストールされます。</p> <p>Linux プラットフォームの場合は /opt/sun/portal</p> <p>Solaris プラットフォームの場合は /opt/SUNWps</p>

表 6 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_CONFIGURATION_MODE	configure	次のような値をとります。 configure - Portal Server のコンポーネントを設定します。 scrubds - Directory Server から Portal Server のコンポーネントエントリを削除します。 unconfigurewithoutscrubds - Directory Server から Portal Server のコンポーネントエントリを削除せずに、それらのコンポーネントの設定を解除します。 unconfigurewithscrubds - Portal Server の設定を解除し、Directory Server からコンポーネントエントリも削除します。
配備情報		
PS_DEPLOY_TYPE	SUNONE8	次のような値をとります。 IWS = Sun Java System Web Server SUNONE = Sun Java System Application Server 7.0 SUNONE8 = Sun Java System Application Server 8.1 WEBLOGIC = BEA WebLogic Server 8.1 SP2 WEBSHERE = IBM WebSphere Application Server
Portal Server が配備される Web コンテナです。Portal Server は次の製品に配備可能です。 Sun Java System Web Server Sun Java System Application Server 7.0 Sun Java System Application Server 8.1 BEA WebLogic Server のチェックリスト IBM WebSphere Application Server		
Web コンテナ情報 Sun Java System Web Server		
PS_DEPLOY_DIR	/opt/SUNWwbsvr	Sun Java System Web Server がインストールされているディレクトリです。
PS_DEPLOY_INSTANCE	myportalbox.mydomain.com	Portal Server で使用する Web サーバーインスタンスです。注：インスタンス名にはスペースを入れないください。

表 6 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_DEPLOY_DOCROOT	/opt/SUNWwbsvr/docs	スタティックページを保持する Web Server ディレクトリです。
PS_DEPLOY_ADMIN	admin	管理者ユーザー ID です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	http	管理サーバーのプロトコルです。
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	myportalbox.mydomain.com	管理サーバーのホスト名です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	8888	管理サーバーのポート番号です。
PS_DEPLOY_JDK_DIR	/usr/jdk/entsys-j2se	Web コンテナが使用中の JDK ディレクトリです。
Web コンテナ情報 Sun Java System Application Server 7.0		
PS_DEPLOY_DIR	/opt/SUNWappserver7	Sun Java System Application Server 7.0 がインストールされているディレクトリです。
PS_DEPLOY_DOMAIN	/var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1	Sun Java System Application Server ドメインには、インスタンスのセットがあります。 指定されるドメインは、Portal Server が使用するインスタンスを含みます。このドメインは、あらかじめ設定されている必要があります。
PS_DEPLOY_INSTANCE	server1	Portal Server の配備先となる Sun Java System Application Server インスタンスの名前です。 このインスタンスは、あらかじめ設定されている必要があります。インスタンス名にはスペースを入れないください。
PS_DEPLOY_DOCROOT	/var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1/docroot	スタティックページを保持する Application Server ディレクトリです。
PS_DEPLOY_ADMIN	admin	管理者ユーザー ID です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	http	管理サーバーのプロトコルです。
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	myportalbox.mydomain.com	管理サーバーのホスト名です。

表 6 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	4848	管理サーバーのポート番号です。
PS_DEPLOY_JDK_DIR	/usr/jdk/entsys-j2se	Web コンテナが使用している JDK ディレクトリです。
Web コンテナ情報 Sun Java System Application Server 8.1		
PS_DEPLOY_DIR	/opt/SUNWappserver/appserver	Sun Java System Application Server 8.1 がインストールされているディレクトリです。
PS_DEPLOY_DOMAIN	domain1	Sun Java System Application Server ドメインには、インスタンスのセットがあります。指定されるドメインは、Portal Server が使用するインスタンスを含みます。 このドメインは、あらかじめ設定されている必要があります。
PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR	/var/opt/SUNWappserver/domains/domain1	指定されたドメインのフルパスで、Portal Server 用に指定されます。
PS_DEPLOY_INSTANCE	server	Portal Server の配備先となる Sun Java System Application Server インスタンスの名前です。 このインスタンスは、あらかじめ設定されている必要があります。インスタンス名にはスペースを入れないください。
PS_DEPLOY_DOCROOT	/var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot	スタティックページを保持する Application Server ディレクトリです。
PS_DEPLOY_ADMIN	admin	管理者ユーザー ID です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	https	管理サーバーのプロトコルです。
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	myportalbox.mydomain.com	管理サーバーのホスト名です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	4849	管理サーバーのポート番号です。
PS_DEPLOY_JDK_DIR	/usr/jdk/entsys-j2se	Web コンテナが使用している JDK ディレクトリです。

表 6 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
Web コンテナ情報 BEA WebLogic Server のチェックリスト		
PS_DEPLOY_DIR	/usr/local/bea	BEA がインストールされているディレクトリです。
PS_DEPLOY_DOMAIN	mydomain	BEA WebLogic Server ドメインには、インスタンスのセットがあります。指定されるドメインは、Portal Server が使用するインスタンスを含みます。このドメインは、あらかじめ設定されている必要があります。
PS_DEPLOY_INSTANCE	myserver	Portal Server の配備先となる BEA WebLogic Server インスタンスの名前です。 このインスタンスは、あらかじめ設定されている必要があります。名前にスペースを含めることはできません。 Portal Server を管理サーバーインスタンスにインストールする場合、この値は管理サーバーインスタンスの名前になります。それ以外の場合は、管理対象サーバーインスタンスの名前です。

表 6 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_DEPLOY_DOCROOT	/usr/local/boa/user_projects/domains/mydomain/applications	<p>DefaultWebApp のドキュメントルート値は、Portal Server ソフトウェアを実行する BEA WebLogic Server インスタンスに配備する必要があります。</p> <p>DefaultWebApp は、デフォルト Web アプリケーションであり、このアプリケーションから BEA WebLogic Server のスタティックコンテンツが提供されます。デフォルトでは、BEA WebLogic Server のインストール時に定義または作成されるドメイン (mydomain) およびサーバーインスタンスにのみ配備されます。つまり、ユーザー独自の BEA WebLogic Server またはドメインを作成する場合は、ディレクトリを新規サーバーの配備ディレクトリにコピーするか、BEA WebLogic Server 管理コンソールを使用することにより、ユーザー独自のサーバーまたはドメインに DefaultWebApp を配備する必要があります。</p> <p>デフォルト Web アプリケーションの設定方法の詳細については、BEA WebLogic Server のマニュアルを参照してください。</p>
PS_DEPLOY_ADMIN	weblogic	管理者ユーザー ID です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	http	管理サーバーのプロトコルです。
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	myportalbox.mydomain.com	管理サーバーのホスト名です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	7001	管理サーバーのポート番号です。
PS_DEPLOY_JDK_DIR	/usr/local/boa/jdk14_1_03	BEA WebLogic Server が使用している JDK ディレクトリです。
PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR	/usr/local/boa/weblogic81	BEA WebLogic Server ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
PS_DEPLOY_PROJECT_DIR	user_projects	ユーザープロジェクトのディレクトリです。BEA WebLogic のインストール時に入力した値を使用します。

表 6 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_DEPLOY_DOMAINS_DIR	domains	BEA WebLogic Server ドメインを含むディレクトリの名前です。
PS_WEBLOGIC_CONFIG_DIR	/usr/local/bean/user_projects/domains/mydomain	BEA WebLogic Server ドメインのフルパスです。
Web コンテナ情報 IBM WebSphere Application Server		
PS_DEPLOY_DIR	/opt/WebSphere/Express51/AppServer	IBM WebSphere Application Server ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
PS_DEPLOY_INSTANCE	server1	Portal Server の配備先となるインスタンスの名前です。このインスタンスは、あらかじめ設定されている必要があります。 Portal Server は、たとえば「Default-Server」や「Default Server」のように、名前の中にハイフンやスペースのあるアプリケーションサーバーのインスタンスまたはドメインにインストールできません。
PS_DEPLOY_DOCROOT	/opt/IBMHTTPD/htdocs/en_US	スタティックページを保持するディレクトリです。このディレクトリは、Sun Java System Identity Server のインストール時に作成されます。
PS_DEPLOY_ADMIN	admin	管理者ユーザー ID です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	http	管理サーバーのプロトコルです。
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	myportalbox.mydomain.com	管理サーバーのホスト名です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	7080	管理サーバーのポート番号です。
PS_DEPLOY_JDK_DIR	/usr/jdk/entSYS-j2se	Web コンテナが使用している JDK ディレクトリです。
PS_DEPLOY_NODE	myportalbox	
PS_DEPLOY_CELL	myportalbox	
PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST	default_host	IBM WebSphere のインストール時に入力した値を使用します。
Portal Server 情報		

表 6 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_DEPLOY_URI	/portal	URI は、Web サーバーまたはアプリケーションサーバー上の空間であり、Portal Server が使用します。 配備 URI の値の先頭にはスラッシュを置き、かつスラッシュを 1 つだけ使用する必要があります。ただし、配備 URI を「/」だけにすることはできません。
PS_LOAD_BALANCER_URL Portal Server インスタンスを制御するロードバランサ	http://myportalbox.mydomain.com:80/portal	ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 <code>http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy_uri</code> たとえば、 <code>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</code> とします。
PS_PROTOCOL	http	Portal Server へのアクセス時に使用するプロトコルです。値として <code>http</code> や <code>https</code> を指定します。
PS_HOST		Portal Server の完全修飾名
PS_PORT		Portal Server へのアクセスで使用するポート番号です。
Identity Server 情報		
PS_IDSAME_ADMIN_PASSWORD 管理者 (amadmin) パスワード		Sun Java System Identity Server ソフトウェアのインストール時に選択したトップレベルの管理者 (amadmin) パスワードです。
PS_IDSAME_LDAPUSER_PASSWORD 内部 LDAP 認証ユーザーパスワード		Sun Java System Identity Server のインストール時に選択した内部 LDAP 認証ユーザーパスワードです。
PS_DS_DIRMGR_DN Directory Manager DN	cn=Directory Manager	Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager DN です。
PS_DS_DIRMGR_PASSWORD Directory Manager パスワード		Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager パスワードです。

表 6 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD 配備管理者パスワード		Web コンテナの管理者パスワードです。
Secure Remote Access 情報 (Secure Remote Access サポートを設定する場合)		
SRA_GW_PROTOCOL ゲートウェイプロトコル	https	ゲートウェイが使用するプロトコルです。ゲートウェイは、 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
SRA_GW_PORT ゲートウェイポート	443	ゲートウェイが待機するポートです。
SRA_GATEWAY_PROFILE ゲートウェイプロファイル名	default	ゲートウェイプロファイルには、ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連するすべての情報が保存されています。ゲートウェイ管理コンソールで複数のプロファイルを作成し、ゲートウェイの別のインスタンスと別のプロファイルを関連付けることができます。 『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
SRA_SERVER_DOMAIN	<i>portal-server-domain-name</i>	Portal Server がインストールされているマシンのドメイン名です。
SRA_GW_DOMAIN ゲートウェイドメイン	<i>gateway-domain-name</i>	ゲートウェイマシンのドメイン名です。
SRA_IDSAME_ADMIN_PASSWORD 管理者 (amadmin) パスワード		Sun Java System Identity Server ソフトウェアのインストール時に選択したトップレベルの管理者 (amadmin) パスワードです。
SRA_IDSAME_LDAPUSER_PASSWORD 内部 LDAP 認証ユーザーパスワード		Sun Java System Identity Server のインストール時に選択した内部 LDAP 認証ユーザーパスワードです。
SRA_DS_DIRMGT_DN Directory Manager DN	cn=Directory Manager	Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager DN です。

表 6 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
SRA_DS_DIRMGR_PASSWORD Directory Manager パスワード		Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager パスワードです。
SRA_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD 配備管理者パスワード		Web コンテナの管理者パスワードです。
SRA_LOG_USER_PASSWORD ゲートウェイロギングのユーザーパスワード		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。

サンプルのサイレントファイルを以下に示します。

```
#####
#
# Install/Config components (Use comma (,) to separate entries ):
#
# 1. PortalServer
# 2. Secure Remote Access Core
# 3. Gateway
# 4. NetletProxy
# 5. RewriterProxy
#
#####

COMPONENTS=1,2,3,4,5
BASEDIR=/opt

#####
# Portal Server keys
#####
```

PS_CONFIGURATION_MODE possible values

#####

#

configure - Configure the Portal Server Components.

scrubds - Remove the Portal Server Components entries from the Directory Server.

unconfigurewithoutscrubds - Unconfigure the Portal Server Components without removing the entries from the Directory Server.

unconfigurewithscrubds - Unconfigure the Portal Server and also remove the entries from the Directory Server.

#

#####

PS_CONFIGURATION_MODE=configure

PS_DEPLOY_TYPE possible values#####

#

IWS = WebServer

SUNONE = AppServer 7

SUNONE8 = AppServer8.1

WEBLOGIC = BEA WebLogic

WEBSHERE = IBM WebSphere

#

#####

PS_DEPLOY_TYPE=SUNONE8

PS_DEPLOY_DIR possible values#####

#

/opt/SUNWwbsvr = WebServer

/opt/SUNWappserver7 = AppServer 7

```

# /opt/SUNWappserver/appserver = AppServer 8.1
# /usr/local/BEA = BEA WebLogic
# /opt/WebSphere/AppServer = IBM WebSphere
#
#####

PS_DEPLOY_DIR=/opt/SUNWappserver/appserver

##### PS_DEPLOY_DOMAIN possible values#####
#
# null = WebServer
# /var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1 = AppServer 7.0
# domain1 = AppServer 8.1
# mydomain = BEA WebLogic
# null = IBM WebSphere
#
#####

PS_DEPLOY_DOMAIN=domain1

##### PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR possible values#####
#
# /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1 = AppServer8.1
# null - for other containers.
#
#####

PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR=/var/opt/SUNWappserver/domains/domain1

##### PS_DEPLOY_INSTANCE possible values#####

```

```
#  
# myportalbox.mydomain.com = WebServer  
# server1 = AppServer 7.0  
# server = AppServer 8.1  
# myserver = BEA WebLogic  
# server1 = IBM WebSphere  
#  
#####
```

PS_DEPLOY_INSTANCE=server

```
##### PS_DEPLOY_DOCROOT possible values#####  
#  
# /opt/SUNWwbsvr/docs = WebServer  
# /var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1/docroot = AppServer 7.0  
# /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot = AppServer 8.1  
# /usr/local/BEA/user_projects/domains/mydomain/applications = BEA WebLogic  
# /opt/IBMHttpd/docs = IBM WebSphere  
#  
#####
```

PS_DEPLOY_DOCROOT=/var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot

```
PS_DEPLOY_ADMIN=admin  
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL=https  
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST=myportalbox.mydomain.com  
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT=4848
```

```
##### PS_DEPLOY_JDK_DIR possible values#####  
#
```

```
#/usr/local/boa/jdk141_03 = BEA WebLogic (Please change this to your weblogic JDK Dir in your setup)
```

```
#/usr/jdk/entsys-j2se = for other containers.
```

```
#
```

```
#####
```

```
PS_DEPLOY_JDK_DIR=/usr/jdk/entsys-j2se
```

```
##### PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR possible values#####
```

```
#
```

```
# /usr/local/boa/weblogic81 = BEA WebLogic
```

```
# null - for other containers.
```

```
#
```

```
#####
```

```
PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR=null
```

```
##### PS_DEPLOY_PROJECT_DIR possible values#####
```

```
#
```

```
# user_projects = BEA WebLogic
```

```
# null - for other containers.
```

```
#
```

```
#####
```

```
PS_DEPLOY_PROJECT_DIR=null
```

```
##### PS_DEPLOY_DOMAINS_DIR possible values#####
```

```
#
```

```
# domains = BEA WebLogic
```

```
# null - for other containers.
```

```
#
```

#####

PS_DEPLOY_DOMAINS_DIR=null

PS_WEBLOGIC_CONFIG_DIR possible values#####

#

/usr/local/BEA/user_projects/domains/mydomain = BEA WebLogic

null - for other containers.

#

#####

PS_WEBLOGIC_CONFIG_DIR=null

PS_DEPLOY_NODE possible values#####

#

myportalbox = IBM WebSphere

null - for other containers.

#

#####

PS_DEPLOY_NODE=null

PS_DEPLOY_CELL possible values#####

#

myportalbox = IBM WebSphere

null - for other containers.

#

#####

PS_DEPLOY_CELL=null

PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST possible values#####

#

default_host = IBM WebSphere

null - for other containers.

#

#####

PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST=null

PS_DEPLOY_URI=/portal

PS_LOAD_BALANCER_URL=http://myportalbox.mydomain.com:80/portal

PS_PROTOCOL=http

PS_HOST=myportalbox.mydomain.com

PS_PORT=80

PS_IDSAME_ADMIN_PASSWORD=admin123

PS_IDSAME_LDAPUSER_PASSWORD=test1234

PS_DS_DIRMGR_DN=cn=Directory Manager

PS_DS_DIRMGR_PASSWORD=admin123

PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD=admin123

#####

SRACore keys

#####

SRA_GW_PROTOCOL=http

SRA_GW_PORT=443

SRA_GATEWAY_PROFILE=default

SRA_SERVER_DOMAIN=mydomain.com

```
SRA_GW_DOMAIN=mydomain.com
SRA_IDSAME_ADMIN_PASSWORD=admin123
SRA_IDSAME_LDAPUSER_PASSWORD=test1234
SRA_DS_DIRMGR_DN=cn=Directory Manager
SRA_DS_DIRMGR_PASSWORD=admin123
SRA_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD=admin123
SRA_LOG_USER_PASSWORD=admin123
```

```
#####
```

```
# Gateway keys
```

```
#####
```

```
GW_PROTOCOL=https
GW_HOST=mygwbox.mydomain.com
GW_PORT=443
GW_IP=129.158.227.209
GW_GATEWAY_PROFILE=default
GW_LOAD_BALANCER_URL=http://mygwbox.mydomain.com:80/portal
GW_CERT_INFO="CN=$GW_HOST,L=Santa
Clara,ST=California,C=us,O=Portal,OU=Sun"
GW_SRA_LOG_USER_PASSWORD=admin123
GW_CERT_DB_PASSWORD=admin123
```

```
#####
```

ゲートウェイの設定用チェックリスト

表 7 は、3 列で構成されるゲートウェイのインストール用チェックリストの表です。

表 7 ゲートウェイの設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
GW_PROTOCOL	https	ゲートウェイが使用するプロトコルです。ゲートウェイは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
GW_HOST	mygwbox.mydomain.com	ゲートウェイがインストールされているマシンのホスト名です。
GW_PORT	443	ゲートウェイマシンが待機するポートです。
GW_IP	gw-host-ip-address	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、ゲートウェイがインストールされているマシンのアドレスにしてください。
GW_GATEWAY_PROFILE ゲートウェイプロファイル名	default	ゲートウェイプロファイルには、ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連するすべての情報が保存されています。ゲートウェイ管理コンソールで複数のプロファイルを作成し、ゲートウェイの別のインスタンスと別のプロファイルを関連付けることができます。『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
GW_LOAD_BALANCER_URL Portal Server インスタンスを制御するロードバランサ		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy_uri。たとえば、 http://myportalbox.mydomain.com:80/portal とします。

表 7 ゲートウェイの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
GW_CERT_INFO		証明書情報は、次の形式で指定します。 "CN=\$GW_HOST、 L= 市区町村名、 ST= 都道府県名、 C= 国名を示す 2 文字コード、 O= 所属組織名、 OU= 所属部門名 たとえば、 「CN=\$GW_HOST,L=SantaClara,ST=California,C=us,O=Portal,OU=Sun」 のようになります。
GW_SRA_LOG_USER_PASSWORD		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。
ゲートウェイロギングのユーザーパスワード		
GW_CERT_DB_PASSWORD		任意のパスワードを選択できます。
証明書データベースパスワード		
証明書情報		
組織 (O)	My Organization	所属組織名。
部門 (OU)	MyDivision	所属部門名。
市区町村 (L)	MyCity	市区町村名。
都道府県 (ST)	MyState	都道府県名。
2 文字の国コード (C)	us	国名を示す 2 文字コード。
証明書データベースパスワード		任意のパスワードを選択できます。
パスワードの再入力		確認のためパスワードを再入力します。

Netlet プロキシの設定用チェックリスト

表 8 は、3 列で構成される Netlet プロキシのインストール用チェックリストです。最初の列にはパラメータが示されています。2 列目はデフォルト値です。3 列目では、パラメータについて説明していません。

表 8 Netlet プロキシの設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
NLP_PROTOCOL	https	Netlet プロキシが使用するプロトコルです。Netlet プロキシは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
NLP_HOST	myportalbox.mydomain.com	Netlet プロキシがインストールされているマシンのホスト名です。
NLP_PORT	10555	Netlet プロキシが待機するポートです。
NLP_IP	host-ip-address	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、Netlet プロキシがインストールされているマシンのアドレスにしてください。
NLP_GATEWAY_PROFILE ゲートウェイプロファイル名	default	Portal Server または Secure Remote Access サポートをインストールしたときに指定したのと同じプロファイル名を指定します。 詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
NLP_LOAD_BALANCER_URL Portal Server インスタンスを制御するロードバランサ		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 <code>http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy-uri</code> 。 たとえば、 <code>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</code> とします。
NLP_CERT_INFO		証明書情報は、「CN=\$GW_HOST,L=<市区町村名>,ST=<都道府県名>,C=<国名を示す2文字コード>,O=<所属組織名>,OU=<所属部門名>」の形式で指定してください。 たとえば、 「CN=\$GW_HOST,L=SantaClara,ST=California,C=us,O=Portal,OU=Sun」のようになります。
NLP_SRA_LOG_USER_PAS SWORD ゲートウェイログインのユーザーパスワード		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。

Rewriter プロキシの設定用チェックリスト

表 9 は、3 列で構成される Rewriter プロキシのインストール用チェックリストです。最初の列にはパラメータが示されています。2 列目はデフォルト値です。3 列目では、パラメータについて説明しています。

表 9 Rewriter プロキシのチェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
RWP_PROTOCOL	https	Rewriter プロキシが使用するプロトコルです。Rewriter プロキシは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
RWP_HOST	myportalbox.mydomain.com	Rewriter プロキシがインストールされているマシンのホスト名です。
RWP_PORT	10443	Rewriter プロキシが待機するポートです。
RWP_IP	host-ip-address	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、Rewriter プロキシがインストールされているマシンのアドレスにしてください。
RWP_GATEWAY_PROFILE ゲートウェイプロファイル名	default	Portal Server または Secure Remote Access サポートをインストールしたときに指定したのと同じプロファイル名を指定します。詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
RWP_LOAD_BALANCER_URL Portal Server インスタンスを制御するロードバランサ		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 <code>http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy-uri</code> 。たとえば、 <code>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</code> とします。
RWP_CERT_INFO		証明書情報は、「CN=\$GW_HOST,L=<市区町村名>,ST=<都道府県名>,C=<国名を示す 2 文字コード>,O=<所属組織名>,OU=<所属部門名>」の形式で指定してください。 たとえば、 「CN=\$GW_HOST,L=SantaClara,ST=California,C=us,O=Portal,OU=Sun」のようになります。

表 9 Rewriter プロキシのチェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
RWP_SRA_LOG_USER_PASSW ORD		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。
ゲートウェイロギングのユーザーパスワード		

対話型モードでの Portal Server の設定

1. 端末ウィンドウのルートとして、psconfig スクリプトが格納されたディレクトリに移動します。

```
cd PortalServer-base/lib
```
2. Portal Server を対話型モードで設定するには、「./psconfig」と入力して psconfig スクリプトを実行し、その後、設定に関する質問に対して適切な答えを入力し設定作業を進めます。

Portal Server

表 10 では、インストール後の最小設定作業で必要になる値の一覧を 3 列にまとめています。使用する値は、実行するインストール方法に応じて異なります。

表 10 Portal Server の設定用チェックリスト

質問	デフォルト値	説明
COMPONENTS		
Select the component(s) for Installation or Uninstallation:	1	<ul style="list-style-type: none"> • PortalServer を設定する場合は「1」に設定します。 • Secure Remote Access Core を設定する場合は「2」に設定します。 • ゲートウェイを設定する場合は「3」に設定します。 • NetletProxy を設定する場合は「4」に設定します。 • RewriterProxy を設定する場合は「5」に設定します。
1. Portal Server		
2. Secure Remote Access Core		
3. Gateway		
4. NetletProxy		
5. RewriterProxy		
複数のコンポーネントを設定するには、入力項目の間をカンマ (,) で区切ってください。		
CONFIGURATION_MODE		

表 10 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
Choose one of the following configuration options: 1. configure 2. scrubds 3. unconfigurewithoutscrubds 4. unconfigurewithscrubds	configure	configure - Portal Server のコンポーネントを設定します。 scrubds - Directory Server から Portal Server のコンポーネントエントリを削除します。 unconfigurewithoutscrubds - Directory Server から Portal Server のコンポーネントエントリを削除せずに、それらのエントリの設定を解除します。 unconfigurewithscrubds - Portal Server の設定を解除し、Directory Server からコンポーネントエントリも削除します。
Portal Server 設定情報		
What is the Portal Server Web Containers host	myportalbox.mydomain.com	Portal Server の完全修飾名
Is the Portal Server Web Containers port secure	No	Portal Server へのアクセス時に使用するプロトコルです。設定する値は、プロトコルが http の場合は「No」、プロトコルが https の場合は「Yes」です。
What is the Portal Server Web Containers port	80	Portal Server へのアクセスで使用するポート番号です。
What is the Portal Server deployment URI	/portal	URI は、Web サーバーまたはアプリケーションサーバー上の空間であり、Portal Server が使用します。配備 URI の値の先頭にはスラッシュを置き、かつスラッシュを 1 つだけ使用する必要があります。ただし、配備 URI を「/」だけにすることはできません。

表 10 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
Choose the container to which the portalserver needs to be configured: 1. Sun Java System Web Server 2. Sun Java System Application Server 8.1 3. Sun Java System Application Server 7.0 4. BEA WebLogic Application Server 5. IBM WebSphere Application Server	1	Portal Server が配備される Web コンテナです。次のような値をとります。 1 = Sun Java System Web Server 2 = Sun Java System Application Server 8.1 3 = Sun Java System Application Server 7.0 4 = BEA WebLogic Server 8.1 SP2 5 = WebSphere Application Server
Web コンテナ情報 Sun Java System Web Server		
Where is the Web Container installed	/opt/SUNWwbsvr	Sun Java System Web Server がインストールされているディレクトリです。
What is the Web Container instance	myportalbox.mydomain.com	Portal Server で使用する Web サーバーインスタンスです。 注 : インスタンス名にはスペースを入れないでください。
Web コンテナ情報 Sun Java System Application Server 7.0		
Where is the Web Container installed	/opt/SUNWappserver7	Sun Java System Application Server 7.0 がインストールされているディレクトリです。
What is the Web Container domain	/var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1	Sun Java System Application Server ドメインには、インスタンスのセットがあります。指定されるドメインは、Portal Server が使用するインスタンスを含みます。このドメインは、あらかじめ設定されている必要があります。
What is the Web Container administrator	admin	管理者ユーザー ID です。
What is the Web Container administration port	4848	管理サーバーのポート番号です。
Is the Web Container administration port secure	No	Portal Server へのアクセス時に使用するプロトコルです。次のような値をとります。 No: プロトコルが http の場合 Yes: プロトコルが https の場合

表 10 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
What is the Web Container instance	server1	Portal Server の配備先となる Sun Java System Application Server インスタンスの名前です。このインスタンスは、あらかじめ設定されている必要があります。インスタンス名にはスペースを入れないでください。
What is the Web Container document root directory	var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1/docroot	スタティックページを保持する Application Server ディレクトリです。
What is the Web Container administrator password		Web コンテナの管理者パスワードです。
Web コンテナ情報 Sun Java System Application Server 8.1		
Where is the Web Container installed	/opt/SUNWappserver/appserver	Sun Java System Application Server 8.1 がインストールされているディレクトリです。
What is the Web Container domain	domain1	Sun Java System Application Server ドメインには、インスタンスのセットがあります。指定されるドメインは、Portal Server が使用するインスタンスを含みます。このドメインは、あらかじめ設定されている必要があります。
What is the Web Container Deploy Instance Dir	/var/opt/SUNWappserver/domains/domain1	指定されたドメインのフルパスで、Portal Server 用に指定されます。
What is the Web Container Deploy Instance	server	Portal Server の配備先となる Sun Java System Application Server インスタンスの名前です。このインスタンスは、あらかじめ設定されている必要があります。インスタンス名にはスペースを入れないでください。
What is the Web Container Document Directory	/var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot	スタティックページを保持する Application Server ディレクトリです。
Who is the Web Container administrator	admin	管理者ユーザー ID です。
What is the HostName of the Machine where Web Container is Installed	myportalbox.mydomain.com	管理サーバーのホスト名です。

表 10 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
Is the Web Container administration port secure	Yes	Portal Server へのアクセス時に使用するプロトコルです。設定する値は、プロトコルが http の場合は「No」、プロトコルが https の場合は「Yes」です。
What is the Web Container administration port	4849	管理サーバーのポート番号です。注 : Sun Java Application Server 8.1 のデフォルト管理者ポート番号は「4849」です。
What is the Web Container administrator password		Web コンテナの管理者パスワードです。
Web コンテナ情報 BEA WebLogic Server		
Where is the Web Container Home Directory	/usr/local/boa	BEA がインストールされているディレクトリです。
Where is the Web Container Product Directory	/usr/local/boa/weblogic81	BEA WebLogic Server ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
What is the Web Container domain	mydomain	BEA WebLogic Server ドメインには、インスタンスのセットがあります。指定されるドメインは、Portal Server が使用するインスタンスを含みます。このドメインは、あらかじめ設定されている必要があります。
What is the Web Container administrator	weblogic	管理者ユーザー ID です。
What is the HostName of the Machine where Web Container is Installed	myportalbox.mydomain.com	Portal Server のホスト名です。
What is the Web Container administration port	7001	管理サーバーのポート番号です。
Is the Web Container administration port secure	No	管理サーバーのプロトコルです。 No: プロトコルが http の場合 Yes: プロトコルが https の場合
What is the User Projects Directory	user_projects	ユーザープロジェクトのディレクトリです。BEA WebLogic のインストール時に入力した値を使用します。
What is the Deploy Domains Directory	domains	BEA WebLogic Server ドメインを含むディレクトリの名前です。

表 10 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
What is the Web Container Configuration Directory Location	/usr/local/bean_projects/domains/mydomain	BEA WebLogic Server ドメインのフルパスです。
What is the Web Container instance	myserver	Portal Server の配備先となる BEA WebLogic Server インスタンスの名前です。このインスタンスは、あらかじめ設定されている必要があります。名前にスペースを含めることはできません。Portal Server を管理サーバーインスタンスにインストールする場合、この値は管理サーバーインスタンスの名前になります。それ以外の場合は、管理対象サーバーインスタンスの名前です。
What is the Web Container document root directory	/usr/local/bean_projects/domains/mydomain/applications	DefaultWebApp のドキュメントルート値は、Portal Server ソフトウェアを実行する BEA WebLogic Server インスタンスに配備する必要があります。DefaultWebApp は、デフォルト Web アプリケーションであり、このアプリケーションから BEA WebLogic Server のスタティックコンテンツが提供されます。デフォルトでは、BEA WebLogic Server のインストール時に定義または作成されるドメイン (mydomain) およびサーバーインスタンスにのみ配備されます。 ユーザー独自の BEA WebLogic Server またはドメインを作成する場合は、ディレクトリを新規サーバーの配備ディレクトリにコピーするか、BEA WebLogic Server 管理コンソールを使用することにより、ユーザー独自のサーバーまたはドメインに DefaultWebApp を配備する必要があります。 デフォルト Web アプリケーションの設定方法の詳細については、BEA WebLogic Server のマニュアルを参照してください。
What is the Web Container JDK Home	/usr/local/bean_jdk141_03	BEA WebLogic Server が使用している JDK ディレクトリです。
What is the Web Container administrator password		Web コンテナの管理者パスワードです。
Again		Web コンテナの管理者パスワードを再入力します。

表 10 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
Web コンテナ情報 IBM WebSphere Application Server		
Where is the Web Container installed	/opt/WebSphere/Express51/AppServer	IBM WebSphere Application Server ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
What is the Virtual Host Name	default_host	IBM WebSphere のインストール時に入力した値を使用します。
What is the Node name	myportalbox	
What is the Cell name	myportalbox	
Instance nickname	server1	Portal Server の配備先となるインスタンスの名前です。このインスタンスは、あらかじめ設定されている必要があります。Portal Server は、たとえば「Default-Server」や「Default Server」のように、名前の中にハイフンやスペースのあるアプリケーションサーバーのインスタンスまたはドメインにインストールできません。
What is the Web Container document root directory	opt/IBMHTTPD/htdocs/en_US	スタティックページを保持するディレクトリです。このディレクトリは、Sun Java System Identity Server のインストール時に作成されます。
What is the Web Container JDK Home	/usr/jdk/entsys-j2se	Web コンテナが使用している JDK ディレクトリです。
Portal Server 情報		
PS_LOAD_BALANCER_URL Load balancer controlling Portal Server Instances	http://myportalbox.mydomain.com:80/portal	ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy-uri。 たとえば次のようにします。 http://myportalbox.mydomain.com:80/portal
Identity Server 情報		
What is the Access Manager Administrator (amadmin) Password		Sun Java System Identity Server ソフトウェアのインストール時に選択したトップレベルの管理者 (amadmin) パスワードです。
Administrator (amadmin) Password		

表 10 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
Again		トップレベルの管理者 (amadmin) パスワードを再入力します。
What is the Access Manager Internal LDAP Authentication User Password		Sun Java System Identity Server のインストール時に選択した内部 LDAP 認証ユーザーパスワードです。
Internal LDAP Authentication User Password		
Again		内部 LDAP 認証ユーザーパスワードを再入力します。
What is the Directory Manager DN	cn=Directory Manager	Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager DN です。
Directory Manager DN		
What is the Directory Manager Password		Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager パスワードです。
Directory Manager Password		
Again		Directory Manager のパスワードを再入力します。
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD		Web コンテナの管理者パスワードです。
Deploy AdministratorPassword		
Secure Remote Access Core の設定情報 (Secure Remote Access サポートを設定する場合)		
What is the Gateway protocol	https	ゲートウェイが使用するプロトコルです。ゲートウェイは、Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
Gateway Protocol		
What is the Portal Server domain	portal-server-domain-name	Portal Server がインストールされているマシンのドメイン名です。
Portal Server Domain		
What is the Gateway domain	gateway-domain-name	ゲートウェイマシンのドメイン名です。
Gateway Domain		
What is the Gateway port	443	ゲートウェイが待機するポートです。
Gateway Port		

表 10 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
What is the Gateway profile Gateway Profile Name	default	ゲートウェイプロファイルには、ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連するすべての情報が保存されています。 ゲートウェイ管理コンソールで複数のプロファイルを作成し、ゲートウェイの別のインスタンスと別のプロファイルを関連付けることができます。 『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
What is the Gateway logging user password Gateway Logging User Password		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。
Again		ゲートウェイロギングのユーザーパスワードを再入力します。

ゲートウェイ

表 11 は、3 列で構成されるゲートウェイの設定用チェックリストの表です。最初の列はパラメータです。2 列目にはパラメータのデフォルト値を示しています。3 列目はパラメータの説明です。

表 11 ゲートウェイの設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Gateway protocol	https	ゲートウェイが使用するプロトコルです。ゲートウェイは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
What is the Gateway host	mygwbox.mydomain.com	ゲートウェイがインストールされているマシンのホスト名です。
What is the Gateway port	443	ゲートウェイマシンが待機するポートです。
What is the Gateway IP Address	gw-host-ip-address	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、ゲートウェイがインストールされているマシンのアドレスにしてください。

表 11 ゲートウェイの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Gateway profile Gateway Profile Name	default	<p>ゲートウェイプロファイルには、ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連するすべての情報が保存されています。</p> <p>ゲートウェイ管理コンソールで複数のプロファイルを作成し、ゲートウェイの別のインスタンスと別のプロファイルを関連付けることができます。</p> <p>『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。</p>
What is the Gateway logging user password Gateway Logging User Password Again		<p>これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。</p> <p>ゲートウェイロギングのユーザーパスワードを再入力します。</p>
What is the Portal Server Load Balancer URL Load balancer controlling Portal Server Instances.		<p>ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 <code>http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy-uri</code></p> <p>たとえば、 <code>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</code> とします。</p>
証明書情報		
What is the name of your organization	MyOrganization	所属組織名。
What is the name of your division	MyDivision	所属部門名。
What is the name of your city or locality	MyCity	市区町村名。
What is the name of your state or province	MyState	都道府県名。
What is the two-letter country code	us	国名を示す 2 文字コード。
What is the password for the Certificate Database		任意のパスワードを選択できます。

表 11 ゲートウェイの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
Again		確認のため証明書データベースのパスワードを再入力します。

Netlet プロキシ

表 12 は、3 列で構成される Netlet プロキシの設定用チェックリストの表です。最初の列はパラメータの一覧です。2 列目はデフォルト値の一覧です。3 列目は説明です。

表 12 Netlet プロキシの設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Netlet Proxy protocol	https	Netlet プロキシが使用するプロトコルです。Netlet プロキシは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
What is the Netlet Proxy host	myportalbox.mydomain.com	Netlet プロキシがインストールされているマシンのホスト名です。
What is the Netlet Proxy port	10555	Netlet プロキシが待機するポートです。
What is the Netlet Proxy IP Address	host-ip-address	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、Netlet プロキシがインストールされているマシンのアドレスにしてください。
What is the Gateway profile Gateway Profile Name	default	Portal Server または Secure Remote Access サポートをインストールしたときに指定したのと同じプロファイル名を指定します。 詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
What is the Gateway logging user password Gateway Logging User Password		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。
Again		ゲートウェイロギングのユーザーパスワードを再入力します。

表 12 Netlet プロキシの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Portal Server Load Balancer URL Load balancer controlling Portal Server Instances.		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用しません。 <code>http://fully_qualified_domain:port/portal_deploy_uri</code> たとえば、 <code>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</code> とします。
証明書情報		
What is the name of your organization	My Organization	所属組織名。
What is the name of your division	MyDivision	所属部門名。
What is the name of your city or locality	MyCity	市区町村名。
What is the name of your state or province	MyState	都道府県名。
What is the two-letter country code	us	国名を示す 2 文字コード。
What is the password for the Certificate Database		任意のパスワードを選択できます。
Again		確認のため証明書データベースのパスワードを再入力します。

Rewriter プロキシ

表 13 は、3 列で構成される Rewriter プロキシの設定用チェックリストの表です。最初の列はパラメータの一覧です。2 列目はデフォルト値の一覧です。3 列目は説明です。

表 13 Rewriter プロキシの設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Rewriter Proxy protocol	https	Rewriter プロキシが使用するプロトコルです。Rewriter プロキシは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
What is the Rewriter Proxy host	myportalbox.mydomain.com	Rewriter プロキシがインストールされているマシンのホスト名です。

表 13 Rewriter プロキシの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Rewriter Proxy port	10443	Rewriter プロキシが待機するポートです。
What is the Rewriter Proxy IP Address	<i>host-ip-address</i>	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、Rewriter プロキシがインストールされているマシンのアドレスにしてください。
What is the Gateway profile Gateway Profile Name	default	Portal Server または Secure Remote Access サポートをインストールしたときに指定したのと同じプロファイル名を指定します。 詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
What is the Gateway logging user password Gateway Logging User Password Again		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。 ゲートウェイログインのユーザーパスワードを再入力します。
What is the Portal Server Load Balancer URL Load balancer controlling Portal Server Instances.		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy-uri 。 たとえば、 http://myportalbox.mydomain.com:80/portal とします。
証明書情報		
What is the name of your organization	MyOrganization	所属組織名。
What is the name of your division	MyDivision	所属部門名。
What is the name of your city or locality	MyCity	市区町村名。
What is the name of your state or province	MyState	都道府県名。
What is the two-letter country code	us	国名を示す 2 文字コード。
What is the password for the Certificate Database		任意のパスワードを選択できます。

表 13 Rewriter プロキシの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
Again		確認のため証明書データベースのパスワードを再入力します。

インストール後のタスクの詳細については、[44 ページ](#)の「Portal Server のインストール後のタスク」を参照してください。

サイレントモードでの Portal Server の設定

samplesilent ファイルを使用して Portal Server を設定するには、*PortalServer-base/lib* にある pssamplesilent ファイルを修正して、psconfig スクリプトを実行します。

1. 端末ウィンドウのルートとして、psconfig スクリプトが格納されたディレクトリに移動します。

```
cd PortalServer-base/lib
```

2. 次のように入力します。

```
./psconfig -s pssamplesilentfile
```

インストール後のタスクの詳細については、[44 ページ](#)の「Portal Server のインストール後のタスク」を参照してください。

Portal Server のインストール後のタスク

次のコンポーネントそれぞれに対して、インストール後タスクを実行する必要があります。

- Portal Server
- Secure Remote Access
- Gateway
- NetletProxy と RewriterProxy

Portal Server

Portal Server または Identity Server の管理コンソールを開くには、まず Directory Server と Web コンテナを起動する必要があります。

次のコマンドを使用して、ローカルにインストールされている Directory Server を起動します。

```
/var/opt/mps/serverroot/slaped-hostname/start-slaped
```

次のインストール後タスクは、Portal Server を配備した Web コンテナの種類によって異なります。

- Sun Java System Web Server
- Sun Java System Application Server

- BEA WebLogic Server
- IBM WebSphere Application Server

Sun Java System Web Server

Sun Java System Web Server を起動するには、次の手順に従います。

1. 管理インスタンスを起動します。端末ウィンドウで次のように入力します。

```
cd WebServer-base/SUNWwbsrv/https-websvr-instance-name
./start
```

または

1. Sun Java System Web Server の管理コンソールにアクセスします。
2. 「変更の適用」をクリックして、Web コンテナを再起動します。

Sun Java System Application Server 7.0

端末ウィンドウで、ディレクトリをアプリケーションサーバーのインスタンスユーティリティディレクトリに変更し、startserv スクリプトを実行します。次の例は、デフォルトのアプリケーションサーバードメインとインスタンスが使用されていることを前提としています。

```
cd /var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1/bin
./startserv
```

asadmin ユティリティを使用して、または Sun Java System Application Server 管理コンソールから Sun Java System Application Server を停止および起動する方法については、Sun Java System Application Server のマニュアルを参照してください。

Sun Java System Application Server 8.1

Application Server インスタンスを設定するには、次の手順に従います。

1. ドメインインスタンスを停止します。端末ウィンドウで次のように入力します。

```
/opt/SUNWappserver/appserver/bin/asadmin stop-domain domainname
```

たとえば次のようになります。

```
/opt/SUNWappserver/appserver/bin/asadmin stop-domain domain1
```

2. ドメインインスタンスを起動します。端末ウィンドウで次のように入力します。

```
/opt/SUNWappserver/appserver/bin/asadmin start-domain --user
administrator-user-name --password administratortor-user-password domainname
```

たとえば次のようになります。

```
/opt/SUNWappserver/appserver/bin/asadmin start-domain --user admin --password
password domain1
```

BEA WebLogic Server

BEA WebLogic Server に Portal Server を配備する場合は、Portal Server ソフトウェアのインストールに続いて次の手順を実行します。

1. /var/sadm/install/logs/Java_Enterprise_System_install.B/MMddhhmm ファイルにエラーがないかどうかを確認します。

MM = 月

dd = 日

hh = 時

mm = 分

2. すべての BEA WebLogic Server インスタンス (管理サーバーと管理対象サーバー) を停止します。
3. BEA WebLogic 管理サーバーインスタンスを起動します。管理対象インスタンスにインストールした場合は、管理対象インスタンスも起動します。
4. コマンド行から、次のコマンドを実行します。

```
PortalServer-base/bin/deploy
```

配備 URI のデフォルト値とサーバーインスタンス名を選択し、プロンプトが表示されたら BEA WebLogic Server の管理パスワードを入力します。

5. Portal Server が配備されている BEA WebLogic Server インスタンスを再起動します。Web コンテナインスタンスの起動方法については、Web コンテナのマニュアルを参照してください。

注 管理対象サーバーのインストールの場合は、.war ファイルが配備されません。.war ファイルは、BEA WebLogic Server 管理コンソールを使用して配備してください。

LDAP、UNIX、匿名などの複数の認証方法をサポートする場合は、各認証タイプを Core 認証サービスに追加して、認証メニューを作成する必要があります。詳細については、『Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 管理ガイド』を参照してください。

IBM WebSphere Application Server

1. /var/sadm/install/logs/Java_Enterprise_System_install.B/MMddhhmm ファイルにエラーがないかどうかを確認します。
2. アプリケーションサーバーインスタンスとアプリケーションサーバーノードを停止し、再起動します。Web コンテナインスタンスの起動方法については、Web コンテナのマニュアルを参照してください。

3. コマンド行から、次のコマンドを実行します。

PortalServer-base/bin/deploy

配備 URI のデフォルト値とサーバーインスタンス名を選択し、プロンプトが表示されたら BEA WebLogic Server の管理パスワードを入力します。

サードパーティ Web コンテナへの JSR168 サンプルポートレットと WSRP サンプルのインストール

Java Enterprise Server インストーラを使用して Portal Server および Access Manager SDK をインストールした後、次のいずれかの方法を使用して、JSR168 サンプルポートレットまたは WSRP サンプルをインストールします。BEA WebLogic Server™ または IBM WebSphere Application Server を使用する場合は、JSR168 サンプルポートレットと WSRP サンプルの両方をインストールします。Sun Java System Web Server または Sun Java System Application Server を使用する場合は、WSRP サンプルをインストールします。

注 Mobile Access は IBM WebSphere または BEA WebLogic をサポートしていません。

- [BEA WebLogic](#) または [IBM WebSphere](#) に JSR168 サンプルポートレットおよび WSRP サンプルをインストールするには
- [Web Server](#) または [Application Server](#) 上に WSRP サンプルをインストールするには

BEA WebLogic または IBM WebSphere に JSR168 サンプルポートレットおよび WSRP サンプルをインストールするには

次の手順は、Solaris プラットフォームに Portal Server をインストールする場合にのみ適用されます。

1. BEA WebLogic 8.1 または IBM WebSphere Application Server 5.1 インスタンスを再起動します。
2. 次のコマンドを実行して、JSR168 ポートレットのサンプルをインストールします。

PortalServer-base/lib/postinstall_PortletSamples

プロンプトが表示されたら、Access Manager の管理パスワードと Application Server の管理パスワードを入力します。

portletsamples.war ファイルが配備されます。

3. PATH の設定に /usr/bin が含まれていることを確認します。これは、スクリプトの awk の部分を正常に実行するために必要です。
4. 次のコマンドを実行して WSRP サンプルを設定します。
 - *PortalServer-base/samples/wsrpproducer/producersampleconfig*
プロンプトが表示されたら、Access Manager の管理パスワードを入力します。
 - *PortalServer-base/samples/wsrpconsumer/consumersampleconfig*

プロンプトが表示されたら、Access Manager の管理パスワードを入力します。

Web Server または Application Server 上に WSRP サンプルをインストールするには

Portal Server および Access Manager SDK を、Sun Java System Web Server 6.1 および Sun Java System Application Server 7 上にインストールした後に、次の手順を手動で行う必要があります。

1. Web Server または Application Server のインスタンスを再起動します。
2. PATH の設定に /usr/bin が含まれていることを確認します。これは、スクリプトの awk の部分を正常に実行するために必要です。
3. 次のコマンドを実行して WSRP サンプルを設定します。
 - `PortalServer-base/samples/wsrpproducer/producersampleconfig`
プロンプトが表示されたら、Access Manager の管理パスワードを入力します。
 - `PortalServer-base/samples/wsrpconsumer/consumersampleconfig`
プロンプトが表示されたら、Access Manager の管理パスワードを入力します。

Secure Remote Access

ゲートウェイと一緒に Portal Server を使用する場合は、Portal Server が HTTP と HTTPS のどちらのモードで動作するかどうかに関係なく、ゲートウェイ認証局 (CA) 証明書を Portal Server の信頼できる CA リストに追加する必要があります。

ユーザーセッションがタイムアウトになるか、ユーザーセッションのログアウト動作が行われると、Sun Java System Identity Server はセッション通知をゲートウェイに送信します。Sun Java System Identity Server が HTTP モードで実行している場合でも、`HttpsURLConnection` を使用して SSL クライアントとして動作し、通知を送信します。SSL サーバー (ゲートウェイ) に接続するので、信頼できる CA リストの一部としてゲートウェイ CA 証明書を持っているか、自己署名証明書を許可するオプションを用意するようにします。

注 CA を信頼できる CA リストに追加する方法は、定義されているプロトコルハンドラによって異なります。

`HttpsURLConnection` を作成するには、Java 仮想マシン (JVM™) の `-Djava.protocol.handler.pkgs` プロパティを設定する必要があります。

Portal Server が Sun Java System Web Server、Sun Java System Application Server、または BEA WebLogic Server で稼働している場合、このプロパティはデフォルトで正しく `com.ipplanet.services.com` に設定されます。Sun Java System Identity Server のパッケージには、`HttpsURLConnection` の実装があり、`AMConfig.properties` ファイルで `com.ipplanet.am.jssproxy.trustAllServerCerts=true` フラグを追加することにより、SSL サーバーから自己署名証明書を受け入れるオプションを提供しています。

-Djava.protocol.handler.plgs は、IBM WebSphere Application Server の場合には、デフォルトで設定されません。サポートするアプリケーションサーバーに実装された `HttpsURLConnection` では、それぞれ独自のデフォルトハンドラ (JSSE 実装または カスタム SSL 実装など) を使用する必要があります。

複数のポータルでの複数のゲートウェイの設定

第 2 のポータルに第 2 のゲートウェイをインストールする場合は、第 2 のポータルをポイントするように Cookie URL の転送値を手動で更新する必要があります。

1. Access Manager 管理コンソールにログインします。
2. 「サービス設定」タブを選択します。
3. 「ゲートウェイ」をクリックします。
4. 第 2 のポータルを Cookie URL の転送リストに追加します。

ゲートウェイの起動と停止

1. 次のコマンドを使用してゲートウェイを起動します。

```
gateway-base/SUNWps/bin/gateway -n new-profile-name start
```

`default` は、インストール時に作成されたゲートウェイプロファイルのデフォルト名です。独自のプロファイルを後で作成し、その新しいプロファイルを使用してゲートウェイを再起動できます。『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の第 2 章「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。

複数のゲートウェイインスタンスがある場合は、次のように入力します。

```
gateway-base/SUNWps/bin/gateway start
```

注 ゲートウェイのインストール時に、インストールオプションの後で「ゲートウェイの起動」に「y」を選択した場合は、この手順は不要です。

注 必ず、起動させるインスタンスの設定ファイルだけを /etc/opt/SUNWps ディレクトリに格納しておいてください。

特定のノードで稼働しているゲートウェイインスタンスすべてを停止するには、次のコマンドを使用します。

```
gateway-base/SUNWps/bin/gateway stop
```

Netlet およびゲートウェイでは、PAC ファイルをサポートする場合に、SUNWrhino としてバンドルされている Rhino JavaScript™ パーサーが必要になります。このパーサーは、ゲートウェイと Portal Server ノードにインストールする必要があります。インストールするには、次の手順に従います。

1. 現在のディレクトリから `pkgadd -d . SUNWrhino` を実行して、このパッケージを追加します。

2. `package-base-dir/js.jar` を、
`${JAVA_HOME}/jre/lib/ext` ディレクトリにコピーします。

Netlet プロキシと Rewriter プロキシ

Netlet プロキシと Rewriter プロキシを起動する前に、ゲートウェイプロファイルが、Netlet プロキシと Rewriter プロキシのオプションを指定して更新されていることを確認してください。

- Netlet プロキシを起動するオプションをインストール時に選択しなかった場合は、手動で Netlet プロキシを起動できます。`portal-proxy-base/SUNWps/bin` ディレクトリで、次のように入力します。

```
./netletd -n default start
```

- Rewriter プロキシを手動で起動するオプションをインストール時に選択しなかった場合は、手動で Rewriter プロキシを起動できます。`portal-proxy-base/SUNWps/bin` ディレクトリで、次のように入力します。

```
./rwproxyd -n default start
```

注 すべてのユーザーに対するアクセスリストサービスを有効にして、ゲートウェイ経由のアクセスが許可されるようにしてください。

Sun Java System Portal Server のソフトウェア NetFile では、Windows にアクセスするために、SUNWjcifs としてバンドルされている jCIFS ライブラリが必要です。このライブラリは、Portal Server ノードにのみインストールする必要があります。インストールするには、次の手順に従います。

1. 現在のディレクトリから `pkgadd -d . SUNWjcifs` を実行して、このパッケージを追加します。
2. `portal-server-install-base/SUNWps/lib/postinstall_JCIFS` コマンドを実行します。
3. `portal-server-install-base/SUNWps/bin/undeploy` コマンドを実行します。
4. `portal-server-install-base/SUNWps/bin/deploy` コマンドを実行します。
5. サーバーを再起動します。

Portal Server のインストールの検証

Portal Server 管理コンソールとデスクトップへのアクセス

Sun Java System Identity Server の管理コンソールにアクセスするには

1. ブラウザを開きます。
2. `protocol://hostname.domain:port/amconsole` と入力します。

たとえば次のようになります。

```
http://example.com:80/amconsole
```

3. 管理者名とパスワードを入力して管理コンソールを表示します。

この名前とパスワードは、Sun Java System Identity Server ソフトウェアのインストール時に指定したものです。

Portal Server のデスクトップにアクセスするには

デスクトップにアクセスして、Portal Server インストールを検証します。次の URL を使用してデスクトップにアクセスします。protocol://fully-qualified-hostname:port/portal-URI

たとえば次のようになります。

```
http://example.com:80/portal
```

デスクトップにアクセスすると、認証なしのデスクトップが表示されます。これによりユーザーは、認証を受けるデスクトップの URL に自動的にアクセスし、デスクトップへのアクセス権が与えられます。

例外が発生せずにサンプルのポータルデスクトップが表示された場合は、Portal Server が正常にインストールされています。

ゲートウェイのインストールの検証

1. 次のコマンドを実行して、指定されたポート (デフォルトポートは 443) でゲートウェイが動作しているかどうかをチェックします。

```
netstat -an | grep port-number
```

ゲートウェイが動作していない場合は、デバッグモードでゲートウェイを起動し、コンソールに表示されるメッセージを見ます。次のコマンドを使用して、ゲートウェイをデバッグモードで起動します。

```
PortalServer-base/bin/gateway -n profilename start debug
```

または、platform.conf.profilename ファイルで gateway.debug 属性をメッセージに設定した後で、ログファイルを調べます。詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の第 2 章「ゲートウェイ」にある platform.conf ファイルの理解についての節を参照してください。

2. ブラウザで次のようにゲートウェイの URL を入力し、セキュアモードで Portal Server を実行します。

```
https://gateway-machine-name:portnumber
```

インストール時にデフォルトポート 443 番を選択した場合は、そのポート番号を指定する必要はありません。

3. ユーザー名として amadmin、およびインストール時に指定したパスワードを使用して、Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

これにより、管理コンソールで、新規の組織、ロール、およびユーザーを作成し、必要なサービスと属性を割り当てることができます。

重要な情報

ここでは製品マニュアルに含まれていない最新の情報について説明します。ここでは、次の項目について説明します。

- [インストールに関する注意事項](#)
- [推奨されていない機能](#)

インストールに関する注意事項

Portal Server

Java Enterprise System 6 2005Q1 の場合、Portal Server は次のどちらかの Access Manager で実行するようにインストールおよび構成できます。

- 物理的に同じマシン上の同じインストールセッションでインストールされ、設定されている Access Manager
- すでに別のマシンにインストールされ、設定されている Access Manager

Liberty サンプルを実行するには

Liberty サンプルは、同じシステム上にインストールされている Portal Server と Access Manager 用に設計されています。

Portal Server および Access Manager が個別にインストールされている場合に Liberty サンプルを実行する方法は、次のとおりです。

1. `configSP.sh` の `SP_HOST_DOMAIN` 値が、Access Manager が完全にインストールされたホストをポイントしていることを確認します。
2. サービスプロバイダとして稼動している Access Manager の管理コンソールで、「Provider Home Page」を `URL=http://portal-server-host:port/portal/dt` に設定します。
この値を設定する方法を次に示します。
 - a. 「連携管理」タブを選択します。
 - b. ナビゲーションフレームでサービスプロバイダを選択します。
 - c. データフレームのドロップダウンリストからプロバイダを選択します。
 - d. 「Access Manager の設定」セクションまでスクロールダウンします。
 - e. 「Provider Home Page」を `URL=http://portal-server-host:port/portal/dt` に設定します。

Liberty サンプル 3 の場合のみ、手順 3 と手順 4 を実行します。

3. 「シングルサインオンエラー時のリダイレクト URL」を変更し、
`http://portal-server-host:port/portal/dt?libertySSOFailed=true` に設定します。
この値を設定する方法を次に示します。
 - a. 「連携管理」タブを選択します。
 - b. ナビゲーションフレームでサービスプロバイダを選択します。
 - c. データフレームのドロップダウンリストからプロバイダを選択します。
 - d. 「Access Manager の設定」セクションまでスクロールダウンします。
 - e. 「シングルサインオンエラー時のリダイレクト URL」を、
`http://portal-server-host:port/portal/dt?libertySSOFailed=true` に設定します。
4. 「PreLoginURL」を、
`http://portal-server-host:identity-server-port/amserver/preLogin?metaAlias=is-host&goto=http://portal-server-host:portal-server-port/portal/dt` に設定します。
この値を設定する方法を次に示します。
 - a. 「アイデンティティ管理」に移動し、ドロップダウンメニューから「ユーザー」を選択します。
 - b. 認証なしの **anonymous** ユーザーをクリックし、ナビゲーションフレームの「表示」ドロップダウンリストから「ポータルデスクトップ」を選択します。
 - c. 「編集」リンクをクリックします。
 - d. 「チャンネルおよびコンテンツを管理」をクリックします。
 - e. Login チャンネルの「プロパティの編集」をクリックします。
 - f. 「PreLoginURL」を、
`http://portal-server-host:identity-server-port/amserver/preLogin?metaAlias=is-host&goto=http://portal-server-host:portal-server-port/portal/dt` に設定します。
5. Portal Server ホストの `AMConfig.properties` ファイルを次のように設定します。
 - o `com.ipplanet.am.notification.url=http://portal-server-host:port/servlet/com.ipplanet.services.comm.client.PLLNotificationServlet`
 - o `com.ipplanet.am.session.client.polling.enable=false`

Web コンテナ

Sun Java Server コンポーネント製品のインストールの詳細については、
<http://docs.sun.com/source/817-7054?l=ja> の『Sun Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

推奨されていない機能

NetMail アプリケーションは、Sun Java System Portal Server 製品のこのリリースでは推奨されていません。

Portal Server 6 2005Q1 の更新マニュアル

Portal Server 管理ガイド

Instant Messaging チャンネルの編集ページの設定が変更されています。管理者が 1 つの Instant Messaging Server 用にチャンネルを設定していないとしても、デスクトップのユーザーが設定する必要がある設定値は 2 つだけになりました。

設定する必要がある 2 つの Instant Messaging Server の設定は次のとおりです。

- Instant Messaging ホスト
- Instant Messaging ポート

Secure Remote Access 管理ガイド

次の項目は、オンラインヘルプまたは『Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 Secure Remote Access 管理ガイド』には記載されていませんが、Access Manager 管理コンソールの一部です。

- 「ゲートウェイ」-> 「コア」-> 「ゲートウェイ最低認証レベル」については、オンラインヘルプまたは管理ガイドに記載されていません。
- Access Manager コンソールに表示されるような Proxylet のルールについては、オンラインヘルプまたは管理ガイドに記載されていません。Proxylet のルールの設定情報については、「[Proxylet のルール](#)」を参照してください。

Proxylet のルール

Access Manager 管理コンソールには、「Proxylet のルール」フィールドが追加されています。

Proxylet のルールにより、Proxy Auto Configuration (PAC) ファイルのドメインとプロキシの設定値を指定します。

Proxylet のルールを変更するには、次の手順に従います。

1. Access Manager 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「アイデンティティ管理」タブを選択します。
3. 「表示」ドロップダウンリストから「組織」を選択します。
4. 必要な組織名をクリックします。選択した組織名は、管理コンソールの左上に場所として表示されます。

5. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択します。
6. 「SRA 設定」の下の「Proxylet」の横にある矢印をクリックします。
7. 「編集」をクリックします。
8. 次の構文を使用して、プロキシホストとプロキシポートを入力します。

```
[Protocol:]Domain1[,Domain2,...]:IP or Host:Port
```

構文の意味は次のとおりです。

Protocol - http/ftp/https のいずれかを指定できます。このフィールドはオプションです。

Domain - sun.com などの任意のドメインです。複数のドメインの場合はカンマで区切ります。

IP - ドメインの IP アドレスです。

proxy-host - このドメインで使用されるプロキシサーバー

proxy-port - プロキシサーバーのポート

9. 「保存」をクリックします。

次の特殊な構文により、値をルールに動的に挿入できます。

ルールの中に、proxylet-host:proxylet-port というプロキシサーバーを示す文字列がある場合、生成された PAC ファイルでは、その文字列が Proxylet のホストとポートで置き換えられています。

オンラインヘルプ

検索チャンネルヘルプページの詳細検索セクションでは、次のように述べられています。

- URL - ドキュメントの Uniform Resource Locator (Web アドレス)。URL を指定する場合は、次の点に注意してください。
 - 「が次と等しい」または「が次から始まる」の演算子を使用する場合は、アドレスの http:// 部を入力する必要があります。

「が次と等しい」および「が次から始まる」の演算子は、使用されなくなっています。

既知の問題と制限

ここでは、Portal Server 6 2005Q1 に関する既知の問題のリストを示します。対象となる製品は次のとおりです。

- [インストール](#)
- [移行](#)
- [Proxylet](#)
- [ポートレット](#)
- [WSRP](#)
- [オンラインヘルプ](#)
- [通信チャネル](#)
- [Secure Remote Access](#)
- [ゲートウェイ](#)
- [NetFile](#)
- [Netlet](#)
- [Rewriter](#)
- [ドキュメント](#)
- [Mobile Access](#)
- [ローカライズ](#)

インストール

マルチセッションインストールでゲートウェイのリダイレクションが行われない (#4971011)
インストールモードに関係なく、ゲートウェイのリダイレクションはマルチセッションインストールの間は発生しません。

回避策

1. Portal Server ブラウザを起動して、amconsole にアクセスします。
2. 「サービス設定」タブで、「ゲートウェイ」を選択します。
3. ウィンドウの右下で、「default」および「セキュリティ」タブをクリックします。

4. 続いて、「非認証 URL」フィールドに、「`http://IS-Host:port/amserver/UI/Login`」のような URL を追加します。

たとえば、`http://boa.prc.sun.com:80/amserver/UI/Login` のような URL になります。

5. 最後に、スーパーユーザーとして以下のコマンドを実行してポータルゲートウェイを再起動します。

```
/etc/init.d/gateway -n default start debug
```

Portal Server 6.3.1 による `multiserverinstance` スクリプトが BEA WebLogic で実行されない (#6228757) 初期インストールの際に WebLogic 管理ポートを 7001 に指定した場合は、2 番目のインスタンスの作成時に、別のポート番号を管理サーバーに指定することはできません。

複数インスタンススクリプトが WebLogic 管理ポートについて尋ねてきたときに、ユーザーは異なる値を指定できますが、管理ポートまたは他の管理サーバーの細部設定を変更することはできません。

デフォルトでは、設定されるはずのすべてのインスタンスは、同じ管理サーバーの一部になると想定されています。

回避策

新しい管理サーバーを指すようにするには、次の手順を実行します。

1. `/etc/opt/SUNWps/PSConfig.properties` ファイルで以下のプロパティを変更し、新しい管理サーバーをポイントするようにします。

```
DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL=
```

```
DEPLOY_ADMIN_HOST=
```

```
DEPLOY_ADMIN_PORT=
```

```
DEPLOY_ADMIN=
```

2. `multiserverinstance` スクリプトを使用して新しいインスタンスを作成します。

コンフィギュレータ

Identity Server が Directory Server を LDAPS で実行させている場合、Portal Server コンフィギュレータが作動しない (#5044585)

回避策

DS の SSL 機能を無効にし、非 SSL ポートで AMConfig.properties を更新して、Portal Server を正常にインストールします。

PortalServer-base/lib 内にコンフィギュレータが存在しない (#6209368)

Portal Server パッケージをインストールすると、コンフィギュレータは *PortalServer-base/SUNWps/lib* ディレクトリには存在しなくなります。コンフィギュレータは、psconfig スクリプトへのシンボリックリンクだったものです。パッケージングの問題により、シンボリックリンクは Solaris では作成されませんでした。Linux では使用可能です。psconfig スクリプトを直接使用してください。

回避策

代替手段として psconfig スクリプトを使用します。

PortalServer-base/SUNWps/lib/configurator スクリプトは、*PortalServer-base/SUNWps/lib/psconfig* スクリプトの symlink です。

アップグレード

Java Enterprise Server 2 から Java Enterprise Server 3 にアップグレードすると、Netlet が作動しなくなる (#6202006)

Java Enterprise Server 2 から Java Enterprise Server 3 にアップグレードした後は、Netlet アプレットがロードを実行しません。

回避策

AMCONSOLE から次の手順を実行して、Proxylet と Netlet サービスを設定します。

1. Access Manager コンソールにログインします。
2. Proxylet サービスと Netlet サービスを削除します。
 - a. 「アイデンティティ管理」タブを選択します。
 - b. 「サービス」を選択します。

すべての登録済みサービスが左側のパネルに一覧表示されます。
 - c. 「SRA 設定」から、「Proxylet」と「Netlet」のチェックボックスをオンにします。

- d. 左側のパネルの先頭までスクロールし、「削除」ボタンをクリックします。これにより、Proxylet と Netlet のサービスが ORG レベルから削除されます。
この手順の結果は、組織の下位にある LDAP ディレクトリを開いて、サービス (srapProxylet、srapNetlet) が削除されていることを確認することで、検証できます。
3. サービスをもう一度追加します。追加するには、次の手順に従います。
 - a. 「アイデンティティ管理」タブで、「サービス」を選択します。
 - b. 「サービス」の下の「追加」ボタンをクリックします。これにより、右側のパネルに選択可能なすべてのサービスが表示されます。
 - c. サービスの「Proxylet」と「Netlet」のチェックボックスをオンにし、「了解」をクリックします。新しく追加されたサービスは、左側のパネルの「SRA 設定」の下に表示されます。
4. 新しく追加されたサービスをクリックし、テンプレートファイルを作成します。「保存」ボタンをクリックします。
5. /portal/netlet/jnlpcclient.jar および /portal/netlet/netletjsse.jar を、ゲートウェイサービスの下の URL の非認証リストに追加します。追加するには、次の手順に従います。
 - a. 「サービス設定」タブをクリックします。
 - b. 「SRA 設定」の下のゲートウェイリンクをクリックします。選択可能なすべてのゲートウェイプロファイルの一覧が表示されます。
 - c. リンクをクリックして特定のプロファイルを選択します。
 - d. 「セキュリティ」タブを選択します。
 - e. 非認証 URL の下の編集フィールドに /portal/netlet/jnlpcclient.jar と入力し、「追加」ボタンをクリックします。
 - f. 非認証 URL の下の編集フィールドに /portal/netlet/netletjsse.jar と入力し、「追加」ボタンをクリックします。
 - g. ページの下部にある「保存」ボタンをクリックします。
 - h. ゲートウェイサーバーを再起動します。

Sun Java Enterprise 2 から Sun Java Enterprise 3 にアップグレードするときに、JWSDP コンポーネントをアップグレードするためのパッチが用意されていない (#6202919)

回避策

次の挙げるコンポーネントのパッチを追加します。

118605-01 - SunWjxp 用

118661-01 - JAX-RPC 用

118663-01 - JAXB 用

117724-09 - NSS/JSS/NSPR (sparc) 用

117725-09 - NSS/JSS/NSPR (x86) 用

118128 パッチの Readme を修正する必要がある (#6218083)

パッチ 118128 のパッチ Readme には、次のように述べられています。

このパッチは 117724 (Sparc) 117725 (Linux) に依存しています。

パッチ 117725 は Linux ではなく Solaris x86 用です。

Linux プラットフォームでアップグレードを実行した後に、共通ホストを NetFile に追加できなくなる (#6218847)

Java Enterprise Server 2 をインストールし、次にスクリプトのアップグレードを実行した後は、管理コンソールで NetFile サービスに追加した共通ホストを NetFile Java2 アプレットで表示することはできません。

回避策

なし

ホストタイプを ftp にすると NetFile Java1 にファイルをアップロードできない (#6218924)

Linux および x86 プラットフォームでアップグレードを実行した後は、NetFile Java1 を使用してファイルをアップロードすることはできません。

回避策

なし

Sun Java System Application Server が動作している Linux プラットフォームで Portal Server 6.3 から Portal Server 6.3.1 にアップグレードすると、匿名ログインになる (#6219376)

Application Server が動作している Linux および x86 プラットフォームで Portal Server 6.3 から Portal Server 6.3.1 にアップグレードすると、Cookie を使用しない機能は使えなくなります。ポータルユーザーのデスクトップの代わりに、匿名ログインページが表示されます。

「Cookie サポート」モードで実行している場合は、Linux および x86 プラットフォームにデスクトップが正常に表示されます。

回避策

なし

移行

Directory Manager のパスワードと Identity Server の管理パスワードが異なっていると、インポートに失敗する (#4955769)

インストール時に設定された Directory Manager パスワードが Access Manager (amadmin) パスワードと異なる場合、移行時のインポートプロセスは失敗します。

この状態は、オープンポータルおよび SRA のすべての移行スクリプトで発生します。

amadmin コマンドを実行して LDAP データを変更する場合は、移行スクリプトで Directory Manager パスワードが使用されます。

この問題は、Directory Manager パスワードと Access Manager パスワードが同じ場合には発生しません。

回避策

なし

Proxylet

iNotes および Microsoft Exchange 2000 SP3 が Proxylet でサポートされていない (バグ ID なし)。

いくつかの機能を実行しているときに iNotes にページを表示できない (#6190570)

次のモジュールの場合にエラーが発生し、iNotes に「ページを表示できません」というメッセージが表示されます。

- メール
- 予約
- 予定
- 連絡先
- メッセージ領域

このメッセージは、「保存」ボタンと「削除」ボタンを使用する場合に表示されます。

回避策

なし

Proxylet のダウンロード後に NetFile ヘルプが表示されなくなる (#6180420)

Proxylet と NetFile をダウンロードした場合は、NetFile ヘルプが表示されず、Java コンソールで例外がスローされます。

回避策

なし

Proxylet をダウンロードした後、ポータルデスクトップに SSL モードでアクセスできなくなる (#4990035)
Portal Server が SSL モードの場合は、Proxylet のダウンロード後にポータルデスクトップをダウンロードできません。

回避策

なし

Proxylet のルールのヘルプを利用できない (#5107957)

Proxylet のルールの設定方法については、「Portal Server 6 2005Q1 の更新マニュアル」を参照してください。

Proxylet からユーザーの amconsole にアクセスすると、「アクションは取り消されました」ページが表示される (#6190566)

ゲートウェイを経由してポータルデスクトップにログインし、Proxylet をロードして、管理コンソールにアクセスしようとする、ビューリストボックスが「アクションは取り消されました」ページを返します。

回避策

なし

ポートレット

ポートレットセッションがクラスターの管理対象サーバー全体で保存されない (#6190600)

ポートレットの HTTP セッションのフェイルオーバーは機能しません。

回避策

なし

WSRP

新規 WSRP コンシューマプロデューサを作成できない (#6202285)

新規 WSRP コンシューマプロデューサを作成すると、サーバーでエラーが発生します。

回避策

Application Server 8.1 を使用する場合は、Java Enterprise System 3 のインストールプロセスを実行する前に次の 4 つのパッケージを削除してください。

SUNWjaxp

SUNWxrgrt

SUNWxrprt

SUNWxsrt

注 Application Server 7 を使用している場合は、これらのパッケージを削除しないでください。

オンラインヘルプ

Portal Server オンラインヘルプのリンクは、Identity Server と Portal Server が別々の環境にある場合に壊れる (#6197755)

この問題は、Web コンテナ、IBM WebSphere、および BEA WebLogic に Portal Server がインストールされているときに発生します。

回避策

BEA WebLogic の場合

1. Portal Server マシンの端末ウィンドウで、次のディレクトリに移動します。

```
cd /BEAInstall-base/user_projects/domains/mydomain/applications/DefaultWebApp
```

2. 次のように入力します。

```
ln -s /AccessManager-base/public_html/online_help/ online_help
```

DefaultWebApp ディレクトリが /BEAInstall-base/user_projects/domains/mydomain/applications にない場合は、端末ウィンドウで次のコマンドを入力します。

```
cp /BEAInstall-base/weblogic81/common/templates/applications/DefaultWebApp.jar /tmp
```

```
cd /tmp
```

```
jar -xvf DefaultWebApp.jar
```

```
cd /tmp/_apps_  
cp -R DefaultWebApp /BEAInstall-base/user_projects/domains/mydomain/applications
```

WebSphere の場合

1. Portal Server マシンの端末ウィンドウで、次のディレクトリに移動します。

```
cd  
IBMInstall-base/IBM/WebSphere/Express51/AppServer/installedApps/DefaultNode/DefaultApplication.ear/DefaultWebApplication.war
```

2. 次のように入力します。

```
ln -s /AccessManager-base/SUNWam/public_html/online_help/ online_help
```

通信チャネル

メールチャネルにログインページが表示されない (#4873659)

Sun Java System Messaging Server の ipsecurity 設定が「yes」になっている場合、メールチャネルは Messenger Express クライアントを正常に起動しません。メールチャネルで通常どおり Messenger Express クライアントを起動するには、Messaging Server の ipsecurity 設定を「no」にする必要があります。

回避策

Messaging Server の ipsecurity 設定を「no」に設定します。

MailProvider が SSL secured IMAP で動作しない (#4919693)

現在実装されている MailProvider は、SSL secured IMAP では動作しません。

回避策

IMAPS チャネルを設定した後、そのチャネルが Portal Server でのエラーをコンテナである Web Server に表示する場合は、mail.jar を CLASSPATH の最初のエントリとして変更します。

mail.jar ファイルをクラスパスの最初のファイルとして追加するには、次の手順に従います。

1. `ws-install-dir/SUNWwbsvr/https-ws-instance-name/config/server.xml` ファイルを開きます。
2. mail.jar ファイルをクラスパスの最初のエントリに変更します。
3. Web Server を再起動します。

新しく作成したアドレス帳チャンネルがデスクトップに表示されない (#4922220)

アドレス帳サービスは最初に設定する必要があります。AddressBookProvider はあらかじめ設定されていないので、AddressBookProvider が設定されていない限り、AddressBookProvider に基づいてユーザーが作成するチャンネルはユーザーのデスクトップまたはコンテンツリンクに表示されません。詳細については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』の第 17 章にある「アドレス帳チャンネルの設定」、および付録 A の「SSO アダプタテンプレートと設定」を参照してください。

あらかじめ入力済みのユーザー定義チャンネルセットに含まれる他の通信チャンネルに基づいてチャンネルを作成すると、作成されたチャンネルで、「有効な設定を指定してください」というメッセージが表示されます。他の通信チャンネルは、ユーザーのデスクトップに表示するのに必要な程度には定義されていますが、使用するバックエンドサービスを確定するために追加の管理作業が必要になります。

また、通信チャンネルでは、管理作業が完了した後で、デスクトップユーザーがユーザー名やパスワードなどのバックエンド資格情報を指定する必要があります。デスクトップユーザーは、チャンネルの「編集」ボタンを使用して、これらの値をチャンネルで指定することができます。

注

userDefinedChannels セットには、ユーザー固有のセットアップには適用されないバックエンドサービスへの参照が含まれる場合があるので、インストール単位で管理が必要になる場合もあります。たとえば、このセットのすべての Lotus プロバイダは、通信チャンネルの Lotus バックエンドサービスとの相互動作を参照しますが、ポータルユーザーベースのうちどれも Lotus バックエンドサービスを使用しない場合は適用されません。

ドメイン名が設定されていないと、カレンダーチャンネルが起動しない (#4946959)

カレンダーチャンネルのサーバー名に完全修飾ドメイン名が含まれていないと、カレンダーチャンネルは起動しません。

回避策

サーバー名の設定に完全修飾ホスト名が使用されていることを確認してください。

SSO アダプタ設定が分散および冗長の個人用アドレス帳をサポートしない (#5020452)

旧バージョンの SSO 個人用アドレス帳 (PAB) アダプタは、コンテナ o=pab がユーザーとグループディレクトリ内に共存していることを前提としています。Portal Server 6 2005Q1 では、PAB ディレクトリサーバーを指定する「SUN-ONE-ADDRESS-BOOK」アダプタテンプレートを新しくサポートするようになりました。これにより、次のプロパティがサポートされるようになっています。

ugHost: PAB 検索の LDAP ホスト名

ugPort: PAB 検索の LDAP ポート

回避策

これらのプロパティは、Identity Server 管理コンソールから、「SUN-ONE-ADDRESS-BOOK」SSO アダプタテンプレートに管理者が手動で追加する必要があります。

1. Access Manager 管理コンソールにログインします。

2. 「サービス設定」 > 「SSO アダプタ」 を選択します。
3. SSO アダプタテンプレートとして「SUN-ONE-ADDRESS-BOOK」 を選択します。
4. 「プロパティの編集」 > 「新規デフォルト」 を選択します。
 - a. 「ugHost」 を名前に指定します。
 - b. LDAP ホスト名を指定します。
 - c. 「作成」 を選択します。
5. 「プロパティの編集」 > 「新規デフォルト」 を選択します。
 - a. 「ugPort」 を名前に指定します。
 - b. LDAP ポートを指定します。
 - c. 「作成」 を選択します。

メールチャネルのリンク先が、メールクライアントではなくポータルデスクトップになっている (#5053733) ユーザーがメールチャネルからログアウトリンクを選択すると、クライアントログアウトページのログアウトページは表示されません。代わりに、ポータルデスクトップページが表示されます。

回避策

この問題が発生した場合は、次の手順を実行します。

1. ポータルデスクトップを更新します。
2. 前のポータルページで「メールを起動」リンクをクリックすると、メールクライアントを再起動できます。

ログアウトの後に、ポータルデスクトップではなく、webmail ログインページが表示されるようにするには、次の手順を実行します。

1. Messaging Server で次のコードを変更します。

/var/opt/SUNWmsgsr/config/html/main.js ファイルには、restart() メソッドがあります。このメソッドは exit() から呼び出され、exit() は logout() から呼び出されます。

```
function restart() {
  var ref = window.document.referrer != "" ? window.document.referrer : '/'
  if (ref.indexOf('mail.html') > 0)
    ref = '/'
  var ind = ref.indexOf('?')
  self.location.replace(ind > 0 ? ref.substring(0, ind) : ref)
}
```

1 行目を変更し、メールサーバーのログインページの URL を次のように入力します。

```
var ref = window.document.referrer != ' ' ? "http://pavoni:2080" : '/'
```

2. メールサーバーを再起動します。
3. ブラウザのキャッシュをクリアします。

テストするには、次の手順に従います。

1. 「メールを起動」をクリックします。
2. **webmail** からログアウトします。
3. 「メールを起動」をクリックします。古いセッションが無効になると、**webmail** ログインページが表示されます。

UWC メールチャネルの「メールを起動」リンクをクリックしても MailBox が開かない(#6179802)

「メールを起動」リンクをクリックすると、ユーザーの受信箱ではなく Web Server の索引ページが開きます。

Java Server Enterprise 3 では、ポータルメールチャネルによりポータルデスクトップから UWC を起動できます。

MailProvider に基づく「UWCMail」という新しいチャネルも追加されています。UWCMail チャネルは、デフォルトの組織またはルートサフィックスで使用可能ですが、出荷時のコンテナとは関連付けられていません。UWCMail チャネルは、コンテナに追加する必要があります。

UWCMail チャネルは、次のプロパティを定義します。

- title
- description
- ssoAdapter
- applicationHelperEdit
- applicationHelperURL

SSO アダプタ設定は sunUWCMail、SSO アダプタテンプレートは SUN-UWC-MAIL です。

回避策

新しい UWCMail チャネルを使用するには、UWCMail チャネルをチャネルのコンテナに追加して、デスクトップに表示されるようにします。

1. Access Manager 管理コンソールから、UWCMail チャネルを「フロントページ」タブに追加します。
2. UWCMail チャネルを編集し、サーバーの設定値を指定します。たとえば、新規ユーザーとしてポータルデスクトップにログインし、次の値を指定して UWCMail チャネルを編集します。
 - サーバー名: *messaging-server-name*

既知の問題と制限

- IMAP サーバーポート : *messaging-server-imap-port*
- ユーザー名 : *uid*
- ユーザーパスワード : *password*
- SMTP サーバー名 : *messaging-server-smtp-server-name*
- SMTP サーバーポート : *messaging-server-smtp-port*
- クライアントポート : *messenger-express-client-port*
- メールドメイン : *hosted-domain*

UWC カレンダーチャンネルにカレンダーが表示されない (#6179806)

Java Server Enterprise 3 では、ポータルカレンダーチャンネルによりポータルデスクトップから UWC を起動できます。

CalendarProvider に基づく UWCCalendar という新しいチャンネルも追加されています。UWCCalendar チャンネルは、デフォルトの組織またはルートサフィックスで使用可能ですが、出荷時のコンテナとは関連付けられていません。UWCCalendar チャンネルは、コンテナに追加する必要があります。

UWCCalendar チャンネルは、次のプロパティを定義します。

- title
- description
- ssoAdapter
- ssoEditAttributes (clientHost および clientPort を公開)
- applicationHelperEdit
- applicationHelperURL

SSO アダプタ設定は「sunUWCCalendar」、SSO アダプタテンプレートは「SUN-UWC-CALENDAR」です。

回避策

この新規チャンネルを使用するには、次の手順に従います。

UWCCalendar チャンネルを、チャンネルのコンテナに追加して、デスクトップに表示されるようにします。

1. Access Manager 管理コンソールから、UWCCalendar チャンネルを「フロントページ」タブに追加します。
2. UWCCalendar チャンネルを編集し、サーバーの設定値を指定します。たとえば、新規ユーザーとしてポータルデスクトップにログインし、次の値を指定して UWCCalendar チャンネルを編集します。
 - サーバー名 : *calendar-server-name*
 - サーバーポート : *calendar-server-port*

- ユーザー名 : *uid*
- ユーザーパスワード : *password*
- クライアントサーバー名 : *uwc-client-server-name*
- クライアントポート : *uwc-client-port*

UWC アドレス帳が UWC アドレス帳チャンネルに表示されていない (#6179807)

SSO アダプタの実装である WabpSSOAdapter は、バックエンドからアドレス帳サーバーへの接続に、`clientPort` ではなく `port` を使用しています。このため、ポータル UWC アドレス帳は、UWC クライアントが `port 80` にインストールされていない場合には失敗します。

回避策

次のいずれかの方法によってこの問題を回避できます。

- `port 80` に UWC クライアントをインストールする
- SSO アダプタテンプレートまたは設定プロパティの `port` と値を、`clientPort` と同じ `port` と値に設定する

SSO アダプタテンプレートまたは設定プロパティの `port` と値を `clientPort` と同じに設定するには、組織レベルで指定される「マージ」プロパティとして「`port`」を追加します。チャンネルは、チャンネルの編集ページで「`port`」を公開しません。

「マージ」プロパティとして `port` を追加するには、次の手順に従います。

1. Access Manager 管理コンソールにログインします。
2. 「サービス設定」を選択します。
3. 「SSO アダプタ」を選択します。
4. SUN-UWC-ADDRESS-BOOK の「プロパティの編集 ...」を選択します。
5. 「新規マージ」を選択し、次のように指定します。

名前 : `port`

6. 「作成」を選択します。
7. 「完了」を選択します。
8. 「アイデンティティ管理」を選択します。
9. 「組織」を選択します。
10. 「サービス」を選択します。
11. 「SSO アダプタ」を選択します。
12. sunUWCAddressBook の「プロパティの編集 ...」を選択し、プロパティを指定します。
13. 「新規デフォルト」を選択し、`port` 番号を指定し、「保存」を選択します。

注 ユーザーレベルで SSO アダプタ属性が書き込まれているユーザーが存在している場合は、既存のユーザーは組織レベルの変更点を SSO アダプタ設定に引き継がないので、この解決策は役立たない可能性があります。代わりに、デフォルトプロパティとして定義された「ホスト」とポートによって、SSO アダプタテンプレートを更新することができます。

Microsoft Calendar および Microsoft AddressBook が「コンテンツが使用可能ではありません」エラーをスローする (#6213120)

WebLogic サーバーで Microsoft Calendar チャンネルと Address Book チャンネルを設定する場合には、コンテンツが使用可能ではないことを示すエラーメッセージが表示される場合があります。この問題は、他のファイルが jintegra.jar ファイルよりも優先される場合に発生する可能性があります。

回避策

jintegra.jar ファイルをクラスパスの最初のファイルとして追加します。

jintegra.jar ファイルをクラスパスの最初のファイルとして追加するには、次の手順に従います。

1. /usr/local/boa/user_projects/domains/mydomain/startWebLogic.sh ファイルを開きます。
2. CLASSPATH を編集し、クラスパスの最初の jar ファイルとして /opt/SUNWps/web-src/WEB-INF/lib/jintegra.jar を追加します。
3. startWebLogic.sh を使用して WebLogic サーバーを再起動します。

Lotus Address Book および Calendar が旧バージョンの NCSO.jar で動作しない (#6216069)

Lotus Address Book および Calendar を実行するには、最新バージョンの NCSO.jar が必要です。

回避策

たとえば、Domino 6.5.1 の NCSO.jar など、Domino の最新バージョンを使用します。

Secure Remote Access

Portal Secure Remote Access からカレンダーのリンクにアクセスできない (#4929710)

デスクトップユーザーが、セキュリティ保護なしのアイテムを表示する設定を選択すると、カレンダーデスクトップが表示されます。ただし、リンクは何も表示されません。デスクトップユーザーが、セキュリティ保護なしのアイテムを表示しない設定を選択すると、カレンダーデスクトップは表示されません。そのため、カレンダーデスクトップのアイテムはゲートウェイを経由して動作しません。

回避策

Calendar Server の /opt/SUNWics5/cal/config/ics.conf を編集します。render.xslonlien.enable の行を変更して「yes」にします。

Proxylet のルール編集ページをゲートウェイを介して表示すると、非常に時間がかかる (#6181714)
ゲートウェイを経由して Proxylet のルール編集ページを呼び出すと、応答が非常に遅くなり、Proxylet のルールページを表示する際にしばらく時間がかかります。

回避策

なし

ゲートウェイ

mkchroot がゲートウェイに対して動作しない (#5046586)

./mkchroot を実行する場合は、すべての環境変数がコンソールに表示されます。スクリプトは、chroot ディレクトリを指定した後の最初の手順で失敗します。この問題は、Linux プラットフォームでのみ発生します。

回避策

なし

Portal Server のコンポーネントが別々のセッションの場合、ゲートウェイ経由で Portal Server にログインできない (#6214635)

この問題は、Portal Server のコンポーネントが別々のセッションでインストールされている場合に発生します。

回避策

Portal Server のサービスを別々のセッションに追加する場合は、次の条件を必ず満たしてください。

- すべての Portal Server の一覧が、管理コンソールの「ゲートウェイ」>「Core」の下位に表示されている。
- すべての Portal Server の URL の一覧が、「ゲートウェイ」>「セキュリティ」の下位の非認証 URL に表示されている。

Application Server を停止してから起動すると、ユーザーがゲートウェイを経由してログインできない (#6191449)

Portal Server が Sun Java System Application Server を Web コンテナとして使用している場合は、Web コンテナを停止して再起動すると、場合によっては、ユーザーがゲートウェイを経由して Portal Server にログインするのを阻止するエラーが発生します。この問題は、Application Server S8.1、Web Server、BEA WebLogic、IBM WebSphere などのすべての Web コンテナで発生します。

回避策

ゲートウェイを停止して再起動します。端末ウィンドウで次のように入力します。

```
gateway-base/bin/gateway stop
```

```
gateway-base/bin/gateway start
```

NetFile

NetFile でローカルファイルを開くことができない (#5033644)

ファイルのベースディレクトリが削除されているので、NetFile でローカルファイルを開くことができません。ユーザーがファイルのディレクトリツリーを展開して /tmp/1.txt などのローカルファイルを見つけようとし、ユーザーが「開く」をクリックすると、「ファイル /1.txt が見つかりません。場所を確認してもう一度実行してください」というエラーメッセージを表示した警告ポップアップダイアログが開きます。

回避策

なし

「FTP」タイプで NetFile に共有を追加すると例外が発生する (#5053765)

ユーザーは、NetFile Java1 または Java2 に FTP 共有を追加できません。この問題は、Linux プラットフォームで発生します。

回避策

システムの検索 PATH に ifconfig が追加されていることを確認します。

NFS 用の NetFile が Linux 2.1 で動作しない (#6200718)

NetFile Java1 と Java2 は、どちらも Linux 2.1 プラットフォームの NFS サーバー共有マウントにアクセスできません。

回避策

NetFile を使用して NFS サーバー共有マウントにアクセスするには、次の手順を実行します。

BEA WebLogic の場合：

1. *bea-install-dir*/user_projects/domains/mydomain/ に格納されている startWeblogic.sh スクリプトと startManagedWeblogic.sh スクリプトを編集し、LD_LIBRARY_PATH 変数の後に次の行を追加します。

```
LD_PRELOAD=/usr/lib/libpam.so:${LD_PRELOAD} ; export LD_PRELOAD
```

Sun Java System Application Server の場合：

1. LD_LIBRARY_PATH 変数の後に次の行を追加して、*AS8.1-install-dir*/sun/appserver/bin に格納されている asadmin スクリプトを編集します。

```
LD_PRELOAD=/usr/lib/libpam.so:${LD_PRELOAD} ; export LD_PRELOAD
```

Web Server の場合：

1. 以下の Web コンテナインスタンスの開始スクリプトで、LD_LIBRARY_PATH 変数の後に次の行を追加します。

```
ws-install-dir/sun/webserver/https-ws-instance-name/start
```



```
LD_PRELOAD=/usr/lib/libpam.so:${LD_PRELOAD} ; export LD_PRELOAD
```

Netlet

Netlet で再度ログインした後でロードに失敗する (#2102626)

Netlet がロードされており、デスクトップからログアウトしてもう一度ログインしようとする、Netlet を再起動できなくなります。

回避策

ブラウザを閉じ、新しいブラウザを開いてもう一度ロードしてください。

デフォルトの Microsoft JVM を使用して Netlet をロードするときに、Microsoft Internet Explorer が強制終了する (#2120110)

Netlet がロードされているときには、セキュリティメッセージが表示されます。「はい」をクリックして続行しようすると、Microsoft Internet Explorer が強制終了されます。

回避策

なし

Java 1.4.2 によりブラウザのオプションで pac ファイルが指定されていると、Netlet が動作しない (#6204073)

この問題は、pac ファイルの場所が指定されている形式をプラグインが理解できない場合に発生します。

回避策

pac ファイルの場所の形式は、Java のさまざまなバージョンに合うように指定する必要があります。

Rewriter

Microsoft Exchange 2003 を使用する場合に、gif ファイルが一部のページで欠落する (#6186547)
多数のインタフェースイメージファイルが欠落します。

回避策

なし

iNotes では、「連絡先」タブの下で、ヘルプページが管理コンソールにリダイレクトされる (#6186541)
iNotes の「連絡先」タブの「ヘルプ」ボタンをクリックすると、ヘルプページの代わりに管理コンソールページが表示されます。

回避策

なし

iNotes が正しくログアウトしない (#6186544)

iNotes の「ログアウト」をクリックすると 2 つのオプションが表示されます。どちらのオプションを選択しても、iNotes からログアウトしません。

回避策

なし

Microsoft Exchange 2000 SP3 で警告メッセージが表示され、「アクションは取り消されました」メッセージが表示される (#6186535)

Exchange 2000 SP3 の次のアクションにおいて、セキュリティ警告メッセージと「アクションは取り消されました」のメッセージが表示されます。

- 「メール」の下の「新規」タブをクリックする。
- ドロップボックスリストで任意のアイテムを選択する。
- 「カレンダー」の下の「新規」タブをクリックする。
- 空の削除済みアイテムフォルダをクリックする。
- 新規タスクを作成する。

回避策

なし

「アイテムを開く」ボタンのカレンダー通知ページをクリックすると、Microsoft Exchange 2003 がログインページに戻る (#6186528)

回避策

なし

Microsoft Exchange 2000 SP3 を使用していると、特定のフォルダへのメッセージの移動またはコピー機能が働かない (#6186534)

ゲートウェイを経由して Portal Server にログインし、Microsoft Exchange マシンの詳細設定でブックマークチャンネルを編集する場合は、Microsoft Exchange インタフェースの「移動」/「コピー」ボタンをクリックすると、「処理が実行されませんでした」エラーメッセージが表示されます。

回避策

なし

Microsoft Exchange 2000 SP3 を使用しているときに、ドロップボックスリストでアイテムを選択すると、「アクションは取り消されました」メッセージが表示される (#6186533)

ゲートウェイを経由して Portal Server にログインし、Microsoft Exchange マシンの詳細設定でブックマークチャンネルを編集する場合は、Microsoft Exchange インタフェースのメールおよびカレンダーのドロップダウンリストが機能しません。「アクションは取り消されました」メッセージが表示されます。

回避策

なし

Microsoft Exchange 2000 SP3 を使用しているときに、空の削除済みアイテムフォルダをクリックすると「アクションは取り消されました」メッセージが表示される (#6186540)

ゲートウェイを経由して Portal Server にログインし、Microsoft Exchange マシンの詳細設定でブックマークチャンネルを編集する場合は、Microsoft Exchange インタフェースで削除済みアイテムを空にすることはできません。

回避策

なし

ドキュメント

『Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 管理ガイド』の第 18 章に記載されている `desktopconfig.properties` ファイルへのパスに誤りがある (バグ ID なし)

『Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 管理ガイド』の第 18 章の節「Portal Server のデバッグ」では、`desktopconfig.properties` ファイルが `/etc/opt/SUNWps` に格納されていると述べられています。

正しいファイルの場所は `/etc/opt/SUNWps/desktop` です。

sendrdm コマンド行インタフェースツールの説明に誤りがある (#5078733)

技術リファレンスガイドの第 16 章では、次のように述べています。

`sendrdm` は、CGI またはコマンド行ベースで検索機能を提供するコマンドです。RDM (リソース記述マネージャ) 要求は、SOIF 形式で検索サーバーに送信されます。このコマンドは通常、検索が有効な Sun Java System Portal Server インスタンスのディレクトリである、`/server-instance-directory/deployment_uri` で実行されます。このディレクトリは、インストール時に選択した配備 URI パスにあります。デフォルト Portal Server インストールを選択した場合は、`/var/opt/SUNWps/https-servername/portal` ディレクトリになります。`servername` の値は、デフォルトの Web Portal Server インスタンス名、つまり Portal Server の完全修飾名です。

これに関して正しくは次のとおりです。

デフォルト Portal Server インストールを選択した場合は、`/var/opt/SUNWps/https-instance-name/portal` ディレクトリになります。`servername` の値は、デフォルトの Web コンテナインスタンス名、つまりマシンの完全修飾名で、たとえば `sesta.sun.com` のようになります。

Rewriter ドキュメントでは、http と https のみがサポートされると記載すべき (#5082368)

『Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 管理ガイド』の第 12 章「リライターサービスの管理」にある「サポートされる URL」の節では、「Rewriter は RFC-1738 で指定されているすべての標準 URL をサポートします」と述べられています。この情報は正しくありません。Rewriter は HTTP と HTTPS の URL のみをサポートします。

回避策

なし

Mobile Access

ネイティブ JSP デスクトップは、フロントページサイズが最大のデスクサイズ (Wm1DeckSize) を超える場合に処理を行わない。http://docs.sun.com/source/817-5323/index.html を参照のこと (#4950078)

回避策

なし

メールが HTML 形式で表示される場合がある (#4938743)

本文に HTML が含まれる電子メールメッセージが送信された場合、HTML 形式で表示されます。

回避策

回避策はありません。ただし、メッセージの元のフォーマットを維持するには、メールアプリケーションの設定をプレーンテキストに変更します。

これを行うには、メールクライアントで次の手順を実行します。

1. メニューの「編集」オプションから > 「設定」 > 「Mail & Newsgroups」を選択します。
2. 「Mail & Newsgroups」メニューから「送信形式」をクリックし、「送信形式の設定」を表示します。
3. 「メッセージをプレーンテキストに変換」オプションを選択して「了解」をクリックします。

JES インストーラの実行中に Portal Server 設定パネルのドキュメントルートディレクトリに表示されるデフォルト値が間違っている (#6203728)

この問題は、他の依存製品がインストールおよび設定された後に Portal Server を独立してインストールし、Access Manager 以外の別のインスタンスに Portal Server をインストールしている間に発生します。

回避策

Portal Server を配備した Web コンテナが Sun Java Enterprise System Web Server である場合は、JES インストーラの実行中に表示される Portal Server 設定パネルに入力する、ドキュメントルートディレクトリへのパスが正しいことを確認してください。

たとえば、Sun Java Enterprise System Web Server を `*/opt/SUNWwbsvr*` にインストールした場合、ドキュメントルートディレクトリは `*/opt/SUNWwbsvr/docs*` になります。

モバイルアプリケーションサービスページの「コンテンツ」リンクにより、「不正な要求」メッセージが表示される (#5043783)

不正な要求エラーは、「サービス」オプションのヘルプページの「コンテンツ」リンクをクリックした場合にのみ発生します。これは、Access Manager の管理コンソール > 「アイデンティティ管理」タブからヘルプにアクセスする場合に起きます。

回避策

なし

ビュー：日付を含む場合のルールが機能しない (#6212818)

検索フィルタでの文字列形式 dd/mm/yyyy を使用した日付検索は機能しません。

回避策

IMAP では Wed, 04 Jun 2003 13:06:55 -700 形式で日付を保存しています。この形式を使用する検索フィルタは機能します。

表示名に空白が含まれていると、「表示」リンクが表示されない (#6212854)

「表示」リンクは、表示名がスペースで始まるか終わる場合、デバイスに表示されません。「編集」をクリックすると、NULL ポインタの例外が発生します。

回避策

表示名およびルール名の前後に空白を使用しないでください。

モバイルユーザーとデスクトップユーザーの URL 長を最小化する URL 転送 (#5020380)

URL 転送は、デスクトップユーザーと電話ユーザーの URL 長を最小化するために必要になります。

回避策

リダイレクションを使用して、1つのサーバーでドキュメントを要求しているユーザーを、別のサーバーのドキュメントにシームレスに送信できます。たとえば、ユーザーが `http://home.suncom.net` と入力した場合、これには宛先 URI がありません。このプレフィックスは、Web Server 管理コンソールでは次のように解釈および変換されません。

```
Prefix: /index.html
```

固定された URL に送信するには、次のように入力します。

```
http://home.suncom.net/amserver/UI/Login?module=MSISDN
```

Web サーバーは、URI が `/index.html` になっているすべてのポータル URL を、固定された URL に転送します。このエントリがあるかどうかについて、Web サーバーインスタンスの `obj.conf` ファイルを確認します。

```
NameTrans fn="redirect" from="/index.html"  
url-prefix="http://portal.mobile.suncom.net/amserver/UI/Login?module=MSISDN"
```

モバイルメールとアドレス帳の設定についての説明がマニュアルにない (#5011510)

回避策

なし

Cookie 無効モードでの Application Server 7.1 UR1 の使用 (#5107310)

回避策

Application Server 7.1 Update Release 1 (UR1) を使用する場合、ユーザーが Cookie 無効モードを使用する必要があるときは、次の JVM オプションを Application Server 設定に追加します。

-DJ2EEDeCodeURI

日本語でルールを作成できても、適用時「無効なルール /URL 構文を表示」エラーが発生する (#6190033) ユーザーがブラウザで日本語を使用してルールを追加すると、「無効なルール /URL 構文を表示」エラーメッセージが表示されます。このエラーは、英語を使用するブラウザでは発生しません。

回避策

なし

サブレットフィルタが設定されていると、Web サーバーが常にコンテンツタイプを text/html に設定する (#6174754)

ユーザーが、Sun Java System Web Server に配備されている Access Manager インスタンスによってポータルゲートウェイを配備すると、Web Server はコンテンツタイプを常に text/html に設定します。次の回避策は、ゲートウェイバグ 5093084 の原因となっている Web Server バグ 6173293 に対処する際に役立ちます。

回避策

web-server-instance/config ディレクトリの obj.conf ファイルに次のような変更を加えます。

1. ObjectType が次のように設定されています。

```
ObjectType fn=force-type type=text/html
```

次のように変更します。

```
# ObjectType fn=force-type type=text/html
```

2. この変更を行った後で Web Server を再起動します。

palmOne Treo 180 デバイスのクライアントタイプを cHTML に変更する (#6190070)

palmOne Treo 180 モバイルデバイスが Mobile Access にアクセスする場合、コンテンツは WML マークアップ言語を使用してレンダリングされます。Treo 180 は、cHTML 対応のモバイルデバイスです。Treo 180 デバイスは、WML と cHTML に対応していますが、cHTML はよりリッチなマークアップ言語なので cHTML が望ましいタイプです。

回避策

次の手順により、amconsole を使用して cHTML にクライアントタイプを変更できます。

1. ブラウザで `http://hostname:port/amconsole` を開きます。
2. 管理者としてログインします。
3. 「サービス設定」タブ -> 「クライアントディテクション」-> 「クライアント」-> 「クライアントタイプ:編集」(右側のパネル)をクリックします。
「クライアントマネージャ」が表示されます。
4. WML カテゴリを選択して、WML 対応デバイスの一覧を取得します。

5. UPG1_UP_4.0_(compatible __ Blazer_1.0) を編集し、「このデバイスの直接の親」を cHTML に変更します。

6. デバイスの設定を保存し、それからグローバルのクライアント検出設定を保存します。

クライアントタイプの変更方法の詳細については、『Sun™ Java System Portal Server Mobile Access 6.2 管理ガイド』の第 2 章「モバイル機器の管理」にある「クライアントマネージャ」の使用を参照してください。

モバイルから Anonymous でポータルにログインすると、深刻なデスクトップエラーがスローされる (#6184377)

ユーザーが、XHTML または WML ブラウザ、または WML/XHTML シミュレータを使用してモバイルから匿名ログインで Portal Server にアクセスすると、次のエラーメッセージが表示されます。

「デスクトップで重大なエラーが発生しました。サーバ設定の誤りが原因である可能性があります。この問題を管理者に報告してください。」

回避策

なし

メールからの「ビュー」メニューオプションがモバイルデスクトップに表示されない (#6185041)

CC/PP 対応電話を使用する場合は、正しいデバイス名がポータルデスクトップの「モバイルデバイス」セクションに表示されないことがあります。ユーザーは、表示とデバイスを関連付けることができなくなります。ユーザーがデバイスのコンテンツまたはレイアウトをカスタマイズできない場合があります。amconsole を使用し、次の回避策を適用することにより、モバイルデバイスで「ビュー」メニューオプションを有効にすることができます。

回避策

ユーザーは、ユーザーのプロファイルに手動でデバイス名を追加する必要があります。CC/PP 準拠デバイスの正しいデバイス名は、特殊文字が「_」によって置き換えられ、先頭および末尾に「_」文字を使用した CC/PP プロファイルの URL です。たとえば URL が

`http://developer.openwave.com/uaprof/OPWVSDK62.xml` の場合、デバイス名は

`_http__developer.openwave.com_uaprof_OPWVSDK62.xml_` になります。以下の手順は、デバイス名をユーザーのプロファイルに追加する方法を説明しています。

1. ブラウザで `http://hostname:port/amconsole` を開きます。
2. 管理者としてログインします。
3. 「ユーザー」をクリックし->ユーザーをクリックして->「サービス」->「ポータルデスクトップ」->「編集」->「XML の直接編集」をクリックします。

4. `<Collection name="selectedClients">` タグを探し出します。

このタグには、選択したクライアントデバイスすべての一覧があります。

5. 次のタグを追加します。

```
<String name="_http__developer.openwave.com_uaprof_OPWVSDK62.xml_" value=""/>
```


6. 変更内容を保存します。
7. ユーザーとしてポータルデスクトップにログインします。
8. 新しいモバイルデバイスが呼び出されます。
`_http__developer.openwave.com_uaprof_OPWVSDK62.xml_displays.`
9. 新しいメール表示をこのデバイスに接続します。
10. Openwave 6.2 (xhtml) シミュレータを使用してログインします。
11. 「ビュー」メニューが表示されます。

注 `selectedClients` コレクションに追加される文字列は、特殊文字が「_」によって置き換えられている CC/PP プロファイルの URL です。サポートする各 CC/PP デバイスで上述の手順を繰り返す必要があります。URL は、HTTP ヘッダ、または `/var/opt/SUNWam/debug` にある `CCCPCClientDetector` ログファイルのいずれかにあります。

「モバイルメールの設定」で使用可能なオンラインヘルプがない (#6185112)

ユーザーがポータルデスクトップ上で「編集 メール」をクリックし「モバイルメールの設定を編集」リンクにアクセスする場合、「モバイルメールの設定」用のヘルプは表示されません。

回避策

なし

HDML コンテンツをレンダリングするデバイスが、カレンダー、メール、およびアドレス帳の詳細のページで、日本語文字が文字化けする (#6191363)

ユーザーがそれぞれのカレンダー、メール、およびアドレス帳を表示するときに HDML コンテンツを表示すると、日本語ロケールの場合はそのコンテンツが文字化けします。たとえば、ユーザーが次のような操作を行う場合です。

1. モバイルデスクトップにログインする。コンテンツが表示され、日本語の文字も表示されます。
2. カレンダーに移動する。カレンダーページのコンテンツが表示され、日本語の文字も表示されます。
3. カレンダーを表示する。カレンダーイベントの日本語文字が文字化けします。

メールおよびアドレス帳の場合にも同じ問題が生じます。モバイルデスクトップ (トップページ)、およびカレンダー、メール、アドレス帳の主要なページでは問題ありませんが、ユーザーがコンテンツを表示しようとするページで文字化けが生じます。他のタイプのコンテンツではこの問題は発生しません。

回避策

なし

メールとカレンダーのイベントをブラウザから日本語で送信しその後モバイルデバイスで表示する場合と、その逆の動作の場合に、コンテンツが文字化けする (#6191389)

モバイルデバイスから日本語のカレンダーイベントを追加する間はデバイスにイベントが表示されますが、ブラウザで表示すると日本語が文字化けします。また、ユーザーがブラウザから日本語のイベントを追加するときにはブラウザにイベントが表示されますが、モバイルデバイスで表示すると文字化けします。同様に、ユーザーがブラウザを使用して日本語でメールを送信する場合、モバイルデバイスでメールを表示すると文字化けしています。ユーザーがモバイルデバイスからメールを送信する場合、その電子メールはデバイスに表示されますが、ブラウザで表示すると文字化けします。

回避策

なし

Portal Server Mobile Access アップグレードファイルが更新されている (バグ ID なし)

Sun ONE Portal Server 6.2 から Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 の Solaris SPARC 版 (java_es_05Q1_portal_mobile_access_sparc_solaris8.tar.gz) および Solaris x86 版 (java_es_05Q1_portal_mobile_access_i386_solaris9.tar.gz) にアップグレードする際に使用する Portal Server Mobile Access のファイルは更新されており、以下のアドレスからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/software/download/products/41391049.html>

ローカライズ

カレンダーの日付と時刻が、ロケールに従って表示されない (#4971337)

ポータルデスクトップでは、正しいロケール形式で日付と時刻が表示されません。たとえば、韓国語のロケールパッケージがインストールされている場合、カレンダーの日付と時刻の形式は韓国語で表示されません。この問題は、Mobile Access Pack のローカライズされたインストールすべてにおいて発生します。

回避策

なし

カレンダータスクの残り時間を変更できない (#5031431)

カレンダーにタスクを追加し、残り時間を 15 分に設定します。変更するときにタスクの残り時間が 1 分と表示されますが、Calendar Express では 15 分と表示されます。

回避策

なし

NetFile の日付がサーバーのロケールに依存する (#5026281)

日付の形式は、サーバーのロケールではなく、ユーザーのロケールに依存します。

回避策

なし

中国語の添付テキストファイルを Netmail に正しく保存できない (#5031446)

Netmail を使用して中国語文字を含むテキストファイルを添付する場合、そのファイルを Netmail で受信するユーザーは、ファイルを正しく保存できません。ファイルの文字は文字化けします。

回避策

なし

ファイル名がマルチバイトのファイル名になっているマルチバイトファイルを解凍すると、ファイル名が文字化けする (#5033641)

マルチバイトファイル名のマルチバイトファイルを解凍すると、ファイル名が文字化けします。

回避策

なし

アドレス帳エントリの名前の順序が日本語ユーザーにとって違和感がある (#6197714)

アドレス帳チャンネルおよびマップアドレス帳は、名を表示して姓を表示します。本来は、姓を表示して次に名を表示するものです。

回避策

なし

Netmail Lite を使用して日本語のメールを送信する場合、メッセージの最後にクエスチョンマークまたは意味のない文字が表示される (#6197737)

回避策

なし

de_DE ロケールを使用するとき、詳細検索ページが正しく表示されない (#6208359)

「検索」タブをクリックすると詳細検索ページが表示されますが、ページが部分的に欠落しています。

回避策

なし

管理コンソールの Secure Remote Access の下にある Proxylet の設定ページがローカライズされていない (#6208800)

回避策

なし

Instant Messaging チャンネルの編集ページに、エラーページが表示される (#6210507)

Instant Messaging チャンネルの「編集」ボタンをクリックすると、エラーページが表示されます。

回避策

ユーザーロケールを英語に変更してから Instant Messaging チャンネルを編集します。

アドレス帳チャンネルの「オンラインヘルプ」ボタンが欠落している (#6193284)

アドレス帳チャンネルの「ヘルプ」アイコンにより、ブラウザに「ページが見つかりません」例外が表示されます。アドレス帳チャンネルのヘルプファイルの URL は、
`http://hostname:port/portal/docs/zh_CN/desktop/addressbook.htm` です。

回避策

なし

NetFile のマルチバイトファイル名を NFS サーバーの共有フォルダの下に表示できない (#6193843)

英語以外のユーザーは、マルチバイト文字のファイル名の場合、Portal Server デスクトップから NFS サーバーの共有フォルダにある NetFile ファイルにアクセスできません。

回避策

なし

マルチバイト名のチャンネルの「編集」ボタンをクリックすると、空白ページが表示される (#6193860)

回避策

なし

Notes チャンネルにノートを投稿できない (#6193889)

ポータルデスクトップユーザーは、チャンネルを編集できないので、Notes チャンネルでノートを投稿できません。

回避策

`dp-providers.xml` ファイルの `NoteProvider` の表示プロファイルフラグメントを以下の太字行のように変更します。

```
<Provider name="NotesProvider" class="com.sun.portal.providers.notes.NotesProvider">
```

```
<Boolean name="isEditable" value="true" advanced="true"/>
```

日本語ユーザーのカレンダーチャンネルの時刻形式に誤りがある (#6196579)

日本語ユーザーの場合、カレンダーチャンネルの時刻形式は `PM: HH:MM - AM: HH:MM` です。

回避策

なし

ユーザーが Netlet の警告ダイアログボックスをキャンセルできない (#2112878)

ローカライズされた Portal Server の設定で、Portal Server デスクトップのユーザーが Netlet から FTP または Telnet サービスにアクセスしようとする時、Netlet に「了解」と「取消し」のオプションを配置した警告ダイアログボックスが表示されます。ユーザーが「取消し」をクリックすると、ダイアログがハングします。

回避策

なし

JDK のバージョンによっては、Instant Messenger を Java Web Start で起動できない (#6199908)

この問題は、J2SE 1.5.0 がインストールされている Windows マシンの Portal Server デスクトップにアクセスしようとするときに発生します。

回避策

なし

NetFile Java1 を使用してメールを送信できない (#4910252)

ファイルパスまたはファイル名にマルチバイト文字が含まれている場合、NetFile Java1 から「メール」ボタンを使用してファイルを送信することはできません。

ファイルは、NetFile Java2 を使用してメールできます。

回避策

なし

Netmail オンラインヘルプで指定されている日付形式に誤りがある (#4920181)

Netmail オンラインヘルプでは、メールを検索する場合の日付形式を mm-dd-yy にしています。この形式は多くのロケールでは正しくありません。

回避策

メールを検索する場合の日付形式は、ユーザーのロケールによって異なります。たとえば、日本語ロケールの場合、ユーザーは次の日付形式を使用してください。

yyyy/mm/dd

いくつかのヨーロッパ (EMEA) ロケールに対してカレンダーチャンネルで使用される日付形式に誤りがある (#5033728)

使用されている日付形式は、月、日、年です。日付形式は、日、月、年にしてください。

回避策

なし

カレンダーチャンネルのイベントで、ヨーロッパロケールに対して誤った時刻形式が使用されている (#5033735)

カレンダーチャンネルに表示されるイベントで、誤った時刻形式 (12 時間形式) が使用されています。カレンダーサーバーで設定されているとおり、24 時間形式を使用してください。

回避策

なし

Netmail の検索アプリケーションの韓国語バージョンが、すべてのメッセージの場所を正しく検出しません (#5036419)

「この日付より前」 / 「この日付」 オプションは、値に一致するメッセージを強調表示しません。「この日付より後」 / 「この日付」 オプションは、値に一致するメッセージを強調表示します。

回避策

なし

簡体字中国語ユーザーの場合、ユーザー情報チャンネルの編集ページのデフォルト言語が英語になっている (#5036625)

ロケール XML ファイルは、zh ではなく、en に設定されています。

回避策

なし

匿名デスクトップ (/portal/dt) が、ブラウザの優先される言語セットに従って表示されない (#5059646)

匿名デスクトップに初めてアクセスするときには、ブラウザに指定されている優先言語に従って表示されます。ブラウザで優先言語が変更され、ページが更新されると、デスクトップのコンテンツの一部だけがブラウザのロケールで表示されます。

回避策

なし

言語を選択するとき、ローカライズの設定に時間がかかる (#5074720)

Portal Server ソフトウェアの設定では、言語ごとに数分の時間が必要になります。それぞれの言語では多くの XML ファイルを使用しており、それぞれのファイルで dpadmin が呼び出されます。

回避策

なし

Portal Server Mobile Access のローカライズされた認証 JSP が Access Manager に配備されない (#6191601)

JSP は、SUNWam/mobile_auth_jsps.jar に入れて配信されるので、SUNWam/web-src/services に unjar する必要があります。SUNWam/amserver.war を再作成し、Web コンテナに再配備する必要があります。

回避策

なし

Portal Server がスペイン語ロケールを配備しない (#6214289)

Portal Server は、テキストベースのインタフェースを使用してインストールされている場合、Sun Java System Web Server によって配備されたときに起動しないことがあります。

回避策

なし

日本語ロケールの場合に、NetFile が Windows 2000 共有フォルダ名を正しく表示しない (#6215099) フォルダ名は、日本語ロケールの場合にのみ文字化けして表示されます。

回避策

なし

再配布可能ファイル

Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 には再配布可能なファイルは含まれていません。

問題の報告方法とご意見について

Sun Java System Portal Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でカスタマーサポートにお問い合わせください。

- 次の Web サイトで Sun ソフトウェアサポートサービスをご利用ください。
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトは、保守プログラムやサポート問い合わせ番号だけでなく、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、およびプロダクトトラックにもリンクしています。

- 保守契約を結んでいるお客様は、専用ダイヤルをご利用ください。

サポートのご依頼の前に、次の情報を用意してください。問題を解決するための最善のサポートを提供させて頂くために必要な情報です。

- 問題が発生した状況や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および問題の原因と思われるパッチやその他のソフトウェアの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順
- エラーログやコアダンプ

Sun Java System Portal Server, Mobile Access で問題が発生した場合が、サポートに問い合わせる前に、次の情報を用意してください。

- 問題が発生した状況や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および問題の原因と思われるパッチやその他のソフトウェアの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順

- インストールされている修正プログラムの番号を含む、修正プログラムの種類
- 問題が、電話、エミュレータ、または Mobile Access サーバーで発生したかどうか
- 問題が、Sony Ericsson P800、Nokia 3650 など、特定の種類のデバイスに特有のものかどうか
- 問題が、該当する Mobile Access ソフトウェアをデフォルトでインストールした場合に発生したかどうか
- 問題が最初に発生したのはいつか
- 問題は、常に発生するか、またはランダムに発生するか
- 問題が発生する直前に変更したことがあるとすれば、どのような変更を行ったか
- 問題により影響を受けたユーザー数
- Mobile Access ソフトウェアのインスタンス数、および Portal Server ソフトウェアと Access Manager ソフトウェアにリンクする方法
- マシンの数、および Mobile Access ソフトウェアに関する設定方法
- /var/opt/SUNWps/debug または /var/opt/SUNWam/debug のログファイルに報告されているエラーメッセージまたは例外の内容
- エミュレータの情報ウィンドウに報告されているエラーメッセージの内容
- Mobile Access がインストールされている Web サーバーのポート番号

問題が、クライアントに関連していると考えられる場合は、次の情報を用意してください。

- 新しいクライアントタイプ
- デフォルトのクライアントタイプから変更した設定と、変更した方法
- /var/opt/SUNWam/debug/render.debug ファイルまたは /var/opt/SUNWam/debug/MAPFilterConfig ファイルに報告されているエラーまたは例外の内容
- taglibs ログファイル /var/opt/SUNWam/debug/mapJsp に報告されている例外の内容

Sun ではお客様のご意見をお待ちしております。

サンマイクロシステムズはマニュアルの品質向上のため、皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。Sun へのフィードバックには、次の URL にある Web ベースのフォームを使用してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

完全なドキュメントのタイトルとパーツ番号を該当するフィールドに記入してください。パーツ番号は、7桁または9桁の番号で、マニュアルのタイトルページまたはドキュメントの先頭に記載されています。たとえば、このリリースノートのパート番号は、819-1494 です。

追加情報

次のインターネットのサイトで、Sun Java System の情報を参照できます。

- Sun Java System のドキュメント
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/java.sys?l=ja#hic>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System ソフトウェア製品およびサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System ソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートおよびナレッジベース
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System 開発者用の情報
<http://sunonedev.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun Java System ソフトウェアトレーニング
<http://www.sun.com/software/training>
- Sun ソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

使用は、使用許諾契約の条項に従うものとします。

追加情報

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。